

全授業科目のシラバス(授業計画)

科目区分	授業科目の名称	番号	科目区分	授業科目の名称	番号
教 養 科 目	日本国憲法	1	専 門 教 育 科 目	障がい児保育 I	45
	法の精神	2		障がい児保育 II	46
	宗教と倫理	3		社会的養護内容	47
	人間の生と死	4		教育・保育相談	48-1.2
	キャリアデザイン I	5		保育表現技術 I (音楽)	49
	キャリアデザイン II	6		保育表現技術 II (造形)	50
	生活とかがく	7		保育表現技術 III (身体)	51
	地域と暮らし	8		保育表現技術 IV (言葉)	52
	くらしと経済	9		児童文化	53
	リズム遊び	10		保育実習 I	54
	人間と健康	11		保育実習指導 I	55-1.2
	国語表現法	12		保育・教職実践演習	56
	国際社会と日本	13		教育と社会	57
	現代社会と環境	14		教育方法と技術	58
	多文化共生とことば	15		保育指導法	59
	外国語コミュニケーション I (英語)	16		幼児の音楽 I	60
	外国語コミュニケーション II (英語)	17		幼児の音楽 II	61
	外国語コミュニケーション I (中国語)	18		幼児の音楽 III	62
	外国語コミュニケーション II (中国語)	19		幼児の音楽 IV	63
	情報処理 I	20		幼児の図画工作 I	64
	情報処理 II	21		幼児の図画工作 II	65
	スポーツ・レクリエーション実技	22-1.2		幼児の体育 I	66
専 門 教 育 科 目	保育原理	23		幼児の体育 II	67
	教育原理	24		幼児の生活 I	68
	児童家庭福祉	25		幼児の生活 II	69
	社会福祉	26		レクリエーション論	70
	相談援助	27		保育実習 II	71
	社会的養護	28		保育実習指導 II	72
	教職概論	29		保育実習 III	73
	教育心理学	30		保育実習指導 III	74
	保育の心理学	31		基礎ゼミナール I	75
	こどもの保健 I	32		基礎ゼミナール II	76
	こどもの保健 II	33		専門ゼミナール I	77
	こどもの保健 III	34		専門ゼミナール II	78
	こどもの食と栄養	35-1.2		幼稚園教育実習 I	79
	家庭支援論	36		幼稚園教育実習 II	80
	教育課程論	37		幼稚園教育実習事前事後指導	81
	保育内容総論	38		乳幼児の理解	82
	健康指導法	39		障がい児の理解	83
	人間関係指導法	40		障がい児の支援	84
	環境指導法	41		子育て支援演習	85
	言葉指導法	42		地域ボランティア実践	86
	表現指導法	43		児童館・放課後児童クラブの機能と運営	87
	乳児保育	44-1.2		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	88

担当者	李 智基
科目名	日本国憲法
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法的思考力を養う <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の各条文の意義について、歴史、学説、判例などの学習を通して理解する ・日常の生活と憲法と連携して、考えることができるようになる 	
授業の概要	
<p>憲法の重要性は、国の「最高法規」と「人権保障の基本法」であるという点にある。近・現在の憲法は、基本的人権の保障の条項と、権力分立を定める政治(統治)機構の条項の部分から成り立っているが、両者は密接な関係にある。憲法は、私たち国民の日々の生活と遠い存在ではない。憲法上の平等原則は、「みんな同じ」ということを保障しているのだろうか?また、私たちのプライバシーは憲法上でどのように保障されるのかを確認する。本講義では、歴史的な出来事や判例などを素材としながら、憲法の基本的な考え方を学ぶことを目指す。</p>	
授業計画	
<p>第1回 : 憲法総論・憲法と立憲主義授業記録</p> <p>第2回 : 法の下の平等</p> <p>第3回 : 国民主権と平和主義</p> <p>第4回 : 基本的人権を保障する意義</p> <p>第5回 : 思想・良心の自由</p> <p>第6回 : 表現の自由</p> <p>第7回 : 人身の自由</p> <p>第8回 : 国会</p> <p>第9回 : 内閣</p> <p>第10回 : 司法</p> <p>第11回 : 地方自治</p> <p>第12回 : 財政</p> <p>第13回 : 近代憲法の歴史的意義</p> <p>第14回 : 国民主権・天皇制</p> <p>第15回 : 平和主義・憲法改正</p>	
テキスト : 『伊藤真の憲法入門第5版』伊藤真著 日本書翰社(2014)	
参考書・参考資料等 : 『日本国憲法』小学館(2013)	
学生に対する評価 : 筆記試験(50%)、課題の提出(20%)、受講態度(30%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出は、提出された成果物の内容を評価 ・受講態度は、真摯な態度で講義に参加しているかを評価 	

担当者	李 智基
科目名	法の精神
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会が成り立つ基本的なルールの確認 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の基本的なルールの考え方を把握する ・ルール的な考え方や感覚を試みる 	
<p>授業の概要</p> <p>社会生活を成立させている基本的ルールについての基本的な知識を講義する。これのルールに関する考え方の歴史的な流れを解説し、我々が日常生活を維持しているルールの背景、その内容及び成立過程などを確認する上で、そのルール的な考え方を検討する。具体的な事例を参照しつつ、ルールと現社会との関わりについて扱う。一部内容は、教員試験を想定している。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：国家と政治</p> <p>第2回：民主政治の思想</p> <p>第3回：民主政治の基本原理</p> <p>第4回：主要国家の政治制度</p> <p>第5回：自由と権利分立</p> <p>第6回：立法論</p> <p>第7回：ルールと社会</p> <p>第8回：ルールの基礎知識</p> <p>第9回：ルールの種類</p> <p>第10回：ルールの用語</p> <p>第11回：ルールの解釈</p> <p>第12回：裁判のしくみ</p> <p>第13回：国家の基本的なルール</p> <p>第14回：国民の間のルール</p> <p>第15回：役所に関するルール</p>	
<p>テキスト：『法学入門新版』田中成明著 有斐閣(2016)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『元法制局キャリアが教える法律を読み技術・学ぶ技術』吉田利宏著 ダイヤモンド社(2004)</p>	
<p>学生に対する評価：筆記試験(50%)、課題の提出(20%)、受講態度(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出は、提出された成果物の内容を評価 ・受講態度は、真摯な態度で講義に参加しているかを評価 	

担当者	十津 守宏
科目名	宗教と倫理
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教と倫理の違い <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教と倫理の異同の論理的把握 ・宗教と倫理における基本的パラダイムの理解 	
授業の概要	
<p>宗教とは人間という存在が包含している有限性に対する回答の媒体である。換言すると、それは「死」という人間にとっては不可避な現実により限界付けられた人間の有限性に対して、主観的な合理的な解決を試みてきた人類の知的文化的営みでもある。そして、多くの宗教での事例が示すように、非日常的経験としてのその「宗教」は、日常的経験の世界に存在する倫理的行動規範の基盤を提供してきたこともまた事実である。当該講義においては、先ず宗教と倫理の異同を論じながら、非日常的世界に属する宗教と日常的経験における倫理がいかに結びつき、人間存在そのものや社会そのものを規定してきたのかを、様々な宗教や思想家の思想を手掛かりとしながら、明らかにしていきたいと考えている。</p>	
授業計画	
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：宗教と倫理の異同について</p> <p>第3回：仏教とは宗教か</p> <p>第4回：人生哲学としての仏教</p> <p>第5回：キリスト教と倫理</p> <p>第6回：終末論と中間倫理としてのキリスト教—A・シュヴァイッサー</p> <p>第7回：キリスト教における世界の目的論的理義とその倫理的な意味付け</p> <p>第8回：実践倫理の道標としてのキリスト教</p> <p>第9回：「荒野の40年」—E・ヴァイッゼッカー—</p> <p>第10回：希望の哲学—E・ブロッホ</p> <p>第11回：希望の神学—J・モルトマン</p> <p>第12回：ニヒリズムと倫理—F・ニーチェ—</p> <p>第13回：進歩信仰と終末論</p> <p>第14回：世界と人類のこれから</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト：『倫理と宗教の相克』小坂国継著 ミネルヴァ書房(2009)	
参考書・参考資料等：『宗教の授業』大峯 顯著 法藏館(2005)	
学生に対する評価：筆記試験(80%)、受講態度(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は、授業者が出題した問題に対して記述内容を評価 ・受講態度は、受講者が授業に参加する姿勢内容を評価 	

担当者	十津 守宏
科目名	人間の生と死
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・人類の死生観についての認識を深める	
[到達目標]	
・「死生観」についての確固たる認識を形成する	
授業の概要	
<p>人間とは「死」という何者も避けることが出来ない現実により、その実存を規定されている存在である。本講義では、古今東西の宗教や思弁が、いかにこの「死」という誰にも訪れる圧倒的な絶望をはらんだ現実と向き合い、乗り越え解消していったかについて概説する。加えて、「死」を乗り越える思想である終末論、死者の復活、輪廻思想、ニヒリズムなどについて、それぞれの立場から人間の生と死にいかに向き合ってきたのかを跡付けていくことにより、我々人類の死生観についての認識を深めていきたい。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：「死」の起源 ギルガメッシュ叙事詩	
第3回：「死」の起源 聖書 創世記	
第4回：無限の再生思想—輪廻思想 ヒンドゥー教	
第5回：輪廻の克服 原始ム教	
第6回：輪廻の克服 チベット密教	
第7回：終末論による「死」の克服 ゾロアスター教	
第8回：終末論による「死」の克服 ユダヤ教預言者文学	
第9回：終末論による「死」の克服 ユダヤ教默示文学	
第10回：終末論による「死」の克服 イエスの宣教 現在的終末論	
第11回：終末論による「死」の克服 原始キリスト教と終末論	
第12回：終末論の世俗化 歴史的「神の国」からマルクス主義へ	
第13回：ニヒリズムと終末論 F・ニーチェ	
第14回：日本人の終末論 穏やかな農耕民族的周期的再生への祈り	
第15回：まとめ	
テキスト：『永遠回帰の神話』M・エリアーデ著、堀一郎訳 未来社(1963)	
参考書・参考資料等：『愛する者は死がない』カール・ベッカー著、駒田安紀訳 晃洋書房(2015)	
学生に対する評価：期末試験(70%)、受講態度(30%)	
・受講態度は、講義毎の到達度確認小テスト講義への参画姿勢で評価	

担当者	山本 典子
科目名	キャリアデザインI
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの1年後、1年半後の目標を設定し、行動計画をたてる <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己分析により自己理解を深める ・職業観を育む ・社会人としてのマナーを習得する 	
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、キャリアデザインを形成し、自らの1年後、1年半後の目標の設定を行い、行動計画を立てることを目的とする。キャリアデザインの形成には、自己分析が重要であり、自己理解を進めることで明確な目標設定や進路選択ができる。また、施設長や現場で活躍する社会人の経験談から職業理解を深め、職業観を育む。他にも社会人としてのマナー・知識を習得することで社会へ踏み出す力を養う。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する</p> <p>第3回：目標設定と行動計画をたてる</p> <p>第4回：自分について考える ①自分を振り返る</p> <p>第5回：自分について考える ②自分の強みを知る</p> <p>第6回：自分について考える ③自己理解を深める</p> <p>第7回：社会と職業について ①保育士として活躍している先輩の働き方</p> <p>第8回：社会と職業について ②幼稚園教諭として活躍している先輩の働き方</p> <p>第9回：社会と職業について ③児童養護施設で活躍している先輩の働き方</p> <p>第10回：社会と職業について ④知的障害者福祉施設で活躍している先輩の働き方</p> <p>第11回：社会と職業について ⑤情報収集の仕方と活用について学ぶ</p> <p>第12回：社会人として必要なスキル ①マナーについて</p> <p>第13回：社会人として必要なスキル ②報連相とは</p> <p>第14回：社会人として必要なスキル ③インターネット</p> <p>第15回：キャリアプランについて(目標設定と行動計画の確認)</p>	
<p>テキスト：『キャリア入門編』ディスク編集・発行(2015)</p> <p>参考書・参考資料等：『職業とキャリア』 職業教育・キャリア教育財団 『大学生のためのキャリアデザイン入門』 岩上真珠、大槻奈巳著 有斐閣(2014)</p>	
<p>学生に対する評価：授業態度(60%)、提出物(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度は、授業への参加度、授業時のリフレクションシートをもとに評価 ・提出物は、分量・内容により評価 	

担当者	山本 典子
科目名	キャリアデザインⅡ
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動にむけて行動する力をつける <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己アピールができる ・面接対策スキルを習得する ・社会のルールを理解する 	
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、キャリアデザインⅠで立てた目標の再確認を行い、行動計画を実行していく。自己分析をもとに、履歴書や面接での自己アピールなど、就職活動にあたって基本的なことを学ぶ。また、個人面接での自己アピールの仕方及び、自分を表現するスキルを習得する。他にも社会人としてのルールや知識を習得することで社会へ踏み出す力を養う。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：キャリアプランについて確認する</p> <p>第3回：自分を表現する ①履歴書の効果的な書き方</p> <p>第4回：自分を表現する ②履歴書で自己PRする</p> <p>第5回：自分を表現する ③面接について</p> <p>第6回：自分を表現する ④面接のマナーについて</p> <p>第7回：自分を表現する ⑤面接での自己PRについて</p> <p>第8回：グループワーク ①自己PR</p> <p>第9回：グループワーク ②社会人としてのルール</p> <p>第10回：社会へ踏み出すために ①働くことに対する支援について</p> <p>第11回：社会へ踏み出すために ②働くことに対する保障について</p> <p>第12回：働く姿勢・使命感について</p> <p>第13回：社会的・職業的自立に向けて必要なことの確認</p> <p>第14回：キャリアプランの実行</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<p>テキスト：『大学生の就活編』ディスコ編集・発行(2015)</p> <p>参考書・参考資料等：『職業とキャリア』 職業教育・キャリア教育財团(2015)</p> <p>『自分らしいキャリアのつくり方』高橋俊介著、PHP新書(2009)</p>	
<p>学生に対する評価：授業態度(60%)、提出物(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度は、授業への参加度、授業時のリフレクションシートをもとに評価 ・提出物は、分量・内容により評価 	

担当者	伊藤 康明
科目名	生活とかがく
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物理 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な物理現象に关心を持つ ・身近な物理現象を子供に説明できるようになる 	
授業の概要	
<p>科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にし、社会の変化に影響を与えてきた。事例として情報伝達手段の変遷を取り上げ、その貢献について理解する。身近な自然の事物・現象として光を中心とした電磁波を扱い、日常生活への利用を理解する。また、日常生活における熱の性質と利用について取り上げる。太陽や月などの身近な天体と人間生活との関わり、太陽系における地球について学習する。身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。</p>	
授業計画	
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：身近な物理現象(光と音)</p> <p>第3回：身近な物理現象(力と圧力)</p> <p>第4回：身の回りの物質(物質のすがた)</p> <p>第5回：身の回りの物質(水溶液)</p> <p>第6回：身の回りの物質(状態変化)</p> <p>第7回：電流とその利用(電流)</p> <p>第8回：電流とその利用(電流と磁界)</p> <p>第9回：電磁波とその利用</p> <p>第10回：運動とエネルギー</p> <p>第11回：熱とその利用</p> <p>第12回：天体の動きと地球</p> <p>第13回：活動する地球</p> <p>第14回：科学技術と人間</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト：『中学校学習指導要領解説 理科編』文部科学省著、大日本図書(2008)	
参考書・参考資料等：『小学校学習指導要領解説 理科編』文部科学省著、大日本図書(2008)	
学生に対する評価：レポート(50%)、授業態度(50%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	藤田 泰樹
科目名	地域と暮らし
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成、地域経済、情報社会への対応等の地域の課題について学ぶ <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会を迎える地域のコミュニティの重要性が増大している。地域の再生を目的としたまちおこしをコミュニケーションという視点を通して理解する ・まちおこしや市民協働に対する理解を深め、地域の活動の中で主要な役割を果たし得る能力の涵養を図る 	
<p>授業の概要</p> <p>次世代育成、地域経済、情報社会への対応等の地域の課題について、コミュニケーション教育、ICT教育、子育て支援教育等、教育によって問題を解決しようとする取り組みがあることを示し、こうした取り組みに主体的に参加する態度を養う。授業担当教員と対話をしながら学生も含めた協同学習を通じたアクティブラーニング型の授業を進める。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：地域におけるコミュニケーションやコミュニティデザイン</p> <p>第2回：地域コミュニケーションの方法①パーソナルコーチング</p> <p>第3回：地域コミュニケーションの方法②グループコーチング</p> <p>第4回：地域コミュニケーションが求められる現場でのスキル(従来の方法)</p> <p>第5回：地域コミュニケーションが求められる現場でのスキル(今後の手法)</p> <p>第6回：地域ガバナンスと地域住民とのコミュニケーションの実際</p> <p>第7回：地域ガバナンスと地域住民とのコミュニケーションの今後の形態</p> <p>第8回：合意形成の手順と方法(合意形成プロセスの設計の必要性)</p> <p>第9回：合意形成の手順と方法(合意形成プロセスの現状と課題)</p> <p>第10回：合意形成の手順と方法(合意形成プロセスの設計と実現)</p> <p>第11回：まちづくりプランナーの役割(地域の合意形成のコーディネート役)</p> <p>第12回：まちづくり学習・グループワーク等(地域の合意形成のコーディネート方法)</p> <p>第13回：地域におけるコミュニティデザインの重要性</p> <p>第14回：まちづくりにおけるコミュニティデザインの計画</p> <p>第15回：まちづくりにおけるコミュニティデザインの実践</p>	
<p>テキスト：『コーチング・バイブル第3版』ヘンリー・キムジーハウス著 東洋経済新報社(2012)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『公害原論』宇井純著 亜紀書房(2006)</p> <p>『コミュニティを問い合わせる』広井良典著 筑摩書房(2009)</p>	
<p>学生に対する評価：筆記試験(30%)、受講態度(50%)、ポートフォリオ(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は、社会人として必要な知識の理解度について評価 ・受講態度は、真摯な態度で講義に参加しているかを評価 ・ポートフォリオは、授業者が提示した課題に対する成果物の内容を精査し評価 	

担当者	藤田 泰樹
科目名	くらしと経済
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・日常生活での現象を経済学の視点からわかりやすく説明し、経済の基礎と経済的な考え方を学ぶ	
〔到達目標〕	
・「経済」は身近な生活に深くかかわっている。暮らしの中で起きているさまざまな出来事が「経済」とどのように関わっているのかを理解し、説明ができる	
授業の概要	
日常生活を経済学の視点からわかりやすく説明し、経済の基礎と経済的な考え方を学ぶために主体的協働的に学習する習慣を身につけることも目標とする。身近な生活に深くかかわる経済的な活動の多様性からその原理を探求していく。人間の精神と経済情勢の相関をデータに基づいて探求する。	
授業計画	
第1回：経済を知る 日常生活での経済現象	
第2回：お金と経済 お金の流れと経済活動	
第3回：需要と供給 需要曲線と供給曲線	
第4回：需給と物価① 価格決定の仕組み	
第5回：需給と物価② インフレとデフレ	
第6回：経済主体① 家計は経済の三つの主体の一つである	
第7回：経済主体② 企業とは何か	
第8回：経済主体③ 政府の仕事	
第9回：消費と貯蓄 所得・消費・貯蓄について	
第10回：財政政策 税金と公共サービスの費用	
第11回：金融政策 金融引き締めと金融緩和	
第12回：円高と円安 通貨の交換比率と為替レート	
第13回：人間の精神活動と経済① 12までの内容から4人グループで探求テーマを決める	
第14回：人間の精神活動と経済② 探求テーマについてプレゼン作成	
第15回：人間の精神活動と経済③ クラスでの発表会と討論	
テキスト：『はじめての経済学』〔上〕〔下〕伊藤元重著、日本経済新聞社(2004)	
参考書・参考資料等：『図解・経済入門—基本と常識』平野和之著、西東社(2012)	
学生に対する評価：筆記試験(30%)、受講参加態度(50%)、ポートフォリオ(20%)	
・筆記試験は、社会人として必要な知識の理解度について評価	
・受講態度は、真摯な態度で講義に参加しているかを評価	
・ポートフォリオは、授業者が提示した課題に対する成果物の内容を精査し評価	

担当者	桂山 たかみ
科目名	リズム遊び
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に遊びを通してリズムの本質を理解する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム表現方法の意義を理解できる ・リズムの表現形態の特質が理解できる 	
<p>授業の概要</p> <p>身体的表現活動の意義を理解し、リズム遊びの基礎を習得する。それとともに、現場で用いられる様々なリズムを数多く紹介する。</p> <p>学生のコミュニケーション能力を高める歌遊びを体験する。学生自らが表現する喜びを実感し、その喜びを他人へ伝える能力を高める。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、リズム遊びの目的と意義の説明</p> <p>第2回：打楽器を使った伝承遊び</p> <p>第3回：親子でふれあえるリズム遊び</p> <p>第4回：打楽器や小道具を使ったリズム遊びと間奏</p> <p>第5回：子どもが興味を持つリズム遊び</p> <p>第6回：ダンス曲によるリズム遊び</p> <p>第7回：子どもの好きなアニメーション曲を使ったリズム遊び</p> <p>第8回：振り付けを加えたリズム遊び</p> <p>第9回：言葉かけ、合いの手を入れたリズム遊び</p> <p>第10回：課題成果発表と学生による相互評価(リフレクションシートの交換)</p> <p>第11回：年齢や発達における子どもの動きに応じたリズム遊び</p> <p>第12回：保育者のリズム遊びの表現における意義と役割</p> <p>第13回：季節のリズム遊びとその指導法</p> <p>第14回：生活発表会におけるリズム遊び</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<p>テキスト：『園で使える 手軽に器楽合奏！』芦川登美子編著 自由現代社(2009)</p>	
<p>参考書・参考資料等：随時提示する</p>	
<p>学生に対する評価：課題(50%)、意欲・態度(50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前での表現(演奏力)を身につけること ・課題は、授業時に提出された内容をもとに評価 ・授業態度は、授業への参加度や意欲をもとに評価 	

担当者	鬼塚 純子
科目名	人間と健康
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・スポーツの必要性を理解し、体力維持に努める方法を知る	
〔到達目標〕	
・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を知る	
・健康・スポーツについての基礎知識を身につける	
授業の概要	
<p>本講義では運動の意味、特に運動と健康との関わりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を修得する。さらに、健康とは何か、健康を多角的にとらえる。健康になるための知識を修得し、健康的な生活を維持するためには、どうすればよいのかを知る。運動を継続する重要性を理解し、知識を深めることで運動技術も高める。特に幼児にとって、遊びを通して健康的な成長と日々の健康維持のための運動の大切さの理解を深める。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション 健康の捉え方と健康を維持する方法	
第2回：心身の健康 心身の相関	
第3回：心身の健康 自己性格分析で自分の特徴を知る	
第4回：運動のしくみ 神経系のしくみ、体力とは何か、加齢とからだ	
第5回：運動のしくみ 体を動かすためのエネルギーの供給	
第6回：休養と健康 適切な休養の意義と効果	
第7回：健康学習 概要説明とグループワーク	
第8回：余暇の活動と健康維持	
第9回：食事と健康 適切な食生活	
第10回：食事と健康 実践のためのプログラム	
第11回：ダイエット計画と実践方法	
第12回：飲酒と喫煙の害	
第13回：健康学習 グループワーク成果発表	
第14回：健康学習 成果発表のリフレクション活動	
第15回：学習のまとめと総括	
テキスト：『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修、杏林書院(2005)	
参考書・参考資料等：なし	
学生に対する評価：受講態度(50%)、筆記試験(50%)	
・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価	
・筆記試験は、必要な知識の理解度について評価	

担当者	加藤 扶久美
科目名	国語表現法
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の日本語を見直し、コミュニケーション力を高める <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を一つの言語として客観的に考察すると同時に、自分自身の日本語を総合的にレベルアップし、コミュニケーション力を高める 	
授業の概要	
<p>日本語を概観し、言語の習得について考察し、自分自身の言葉を客観的に捉えて見つめ直すことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能の能力を涵養し、人間関係の円滑な形成に重要な役割を担うコミュニケーション力を高める。それとともに日本語固有の魅力や特徴を学ぶことを通して、日本文化の特徴や長所についての理解を更に深めていくとともに、乳幼児・児童の人間形成や成育の中で言葉の果たす役割について、ことばのモニタリングという手法を通して理解を深めていきたいと考えている。</p>	
授業計画	
第1回：言語としての日本語	
第2回：日本語の音声(1)「音」「音節」「リズム」「母音」「子音」「半母音」	
第3回：日本語の音声(2)「母音の無声化」「アクセント」「イントネーション」	
第4回：日本語の文法(1)「品詞分類」「日本語の文法的特徴」「動詞の活用」「名詞文」	
第5回：日本語の文法(2)「自動詞と他動詞」「可能表現」「受身表現」「授受表現」	
第6回：日本語の文字・表記(1)「常用漢字表」「送り仮名」	
第7回：日本語の文字・表記(2)「外来語の表記」「ローマ字の表記」「符号」	
第8回：日本語の語彙(1)「語彙と語」「語種」	
第9回：日本語の語彙(2)「語彙の体系」「語を数える」	
第10回：自分自身の言葉を見直す(1)「鼻濁音」「アクセント」「母音の無声化」	
第11回：自分自身の言葉を見直す(2)「ら抜きことば」「敬語」	
第12回：言語の習得	
第13回：社会言語学(1)「言語接触」	
第14回：社会言語学(2)「コミュニケーション」	
第15回：口頭発表(授業の内容に関わるテーマで)	
テキスト：『新・はじめての日本語教育1』高見澤孟他著 アスク出版(2004)	
参考書・参考資料等：『日本語教育ハンドブック』日本語教育学会編著 大修館書店(1990)	
学生に対する評価：授業での課題(50%)、レポート(20%)、口頭発表(30%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での課題は、授業者の目標に対して、提出された成果物の到達度を評価 ・レポートは、授業者の目標に対して、提出されたレポートの文書構成と内容を評価 ・口頭発表は、発表内容の完成度や発表姿勢を評価 	

担当者	加藤 扶久美
科目名	国際社会と日本
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・色々な観点から日本語を見直す	
[到達目標]	
・外国人の子供たちが増加している教育現場で、日本語が正しく的確に使えるようになる	
授業の概要	
<p>今世紀は多文化共生の時代である。国境の垣根をこえて人々がコミュニケーションを行うことが必然である。このような時代において、コミュニケーションの主たる媒体である「言語」というものの価値について、我々は見直すべき時期を迎えていといえる。本講義では、教育機関における国際化の現状を鑑みながら、我が国固有の文化—特に言語—に焦点をあてつつ、日本語特有の温かさや特徴を考察することを通して、正しい日本語と教育現場での活かし方について学んでいきたい。</p>	
授業計画	
第1回：世界の中の日本語(1)「国語としての日本語」「日本語の多様性」	
第2回：世界の中の日本語(2)「外国語と日本語」「日本語の有力性」	
第3回：発音から見た日本語(1)「日本語の発音単位」「母音・子音と発音の美しさ」「拍の種類とその組合せ」	
第4回：発音から見た日本語(2)「旋律とリズム」「日本人の音感覚」	
第5回：語彙から見た日本語(1)「語彙の数と体系」「語彙の構成」「単語の形態」	
第6回：語彙から見た日本語(2)「自然関係の語彙」「人間関係の語彙」「生活関係の語彙」「社会関係の語彙」	
第7回：表現法から見た日本語(1)「日本人と文字」「種々の文字の使い分け」「漢字の表意性」 「漢字の多様性と多画性」	
第8回：表現法から見た日本語(2)「漢字の非日本性」「縦書きと横書き」	
第9回：文法から見た日本語(1)「品質分類」「名詞と助詞」「動詞」	
第10回：文法から見た日本語(2)「センテンスとその種類」「語句の並べ方」	
第11回：日本人の言語表現(1)「日本語の簡略表現」	
第12回：日本人の言語表現(2)「他人への考慮」	
第13回：敬語(1)「狭義の敬語」「広義の敬語」	
第14回：敬語(2)「敬語の誤用」「敬語不使用のはたらき」	
第15回：口頭発表(授業の内容に関わるテーマで)	
テキスト：『日本語新版』(上)(下)金田一春彦著 岩波書店(1988)	
参考書・参考資料等：『敬語』南不二男著 岩波書店(1987)	
『変わる日本語その感性』町田健著 青灯社(2009)	
『新・はじめての日本語教育1』高見澤孟他著 アスク出版(2004)	
学生に対する評価：授業での課題(50%)、レポート(30%)、口頭発表(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での課題は、授業者の目標に対して、提出された成果物の到達度を評価 ・レポートは、授業者の目標に対して、提出されたレポートの文書構成と内容を評価 ・口頭発表は、発表内容の完成度や発表姿勢を評価 	

担当者	十津 守宏
科目名	現代社会と環境
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・今日における環境倫理の基本的パラダイムの理解	
[到達目標]	
・生態系内における人間の文明活動の意味について一定の識見を身につける	
・今日における環境倫理のあるべき姿について認識を深める	
授業の概要	
<p>アニメ作家宮崎駿は自らの作品において、人間と自然との共生というテーマを扱ってきたことで広く知られている。1980年代前半で宮崎が作成したアニメ映画『風の谷のナウシカ』では、人間と自然との共生の可能性に肯定的見解を示しながらも、その十数年後に完結させた劇画『風の谷のナウシカ』では人間と自然との共生という問題意識・問題提議そのものが解体へと導かれ、その数年後に発表したアニメ映画『もののけ姫』においては、人間と自然の共生の可能性について、はっきりとした否定的見解を彼は示すにいたっている。当該講義では、この宮崎の思想的変遷の経緯を彼の作品群を手掛かりとして跡付けることを通して、環境倫理の現状や問題点・矛盾、今日における自然と人間との共生の可能性について概説する。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：宮崎作品と環境問題のかかわりについて	
第3回：『未来少年コナン』の社会的背景	
第4回：アニメ映画『風の谷のナウシカ』の社会的背景	
第5回：アニメ映画『風の谷のナウシカ』と環境問題	
第6回：劇画『風の谷のナウシカ』におけるパラダイムシフト	
第7回：劇画『風の谷のナウシカ』にみられる環境倫理へのアンチテーゼ	
第8回：劇画『風の谷のナウシカ』にみられる環境倫理と東洋思想	
第9回：アニメ映画『もののけ姫』の社会的背景	
第10回：アニメ映画『もののけ姫』にみられる自然観	
第11回：アニメ映画『もののけ姫』と環境倫理のこれから	
第12回：環境倫理の現在	
第13回：これからの環境倫理のあり方について	
第14回：環境倫理と東洋思想	
第15回：まとめ	
テキスト：『風の谷のナウシカ』1巻～7巻 宮崎駿著 徳間書店(2009)	
参考書・参考資料等：『環境倫理の現在』辛島司朗著 世界書院(1994)	
学生に対する評価：試験(80%)、受講態度(20%)	
・受講態度は、講義毎の到達度確認小テスト講義への参画姿勢で評価	

担当者	加藤 扶久美
科目名	多文化共生とことば
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生にとってもっとも重要な役割を果たすものは何か? <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人に関わる問題を整理し、多国籍公立小学校の取り組みを参考にしつつ、多言語・多文化共生にとっての課題をまとめる 	
<p>授業の概要</p> <p>日本で暮らす外国人の増加に伴い、日本も多言語・多文化共生の時代になってきているが、色々な面で試行錯誤が続いているのが実情である。本講義では、他国の多言語・多文化共生への取り組みを鑑みてから、我が国の外国人への教育、政府・自治体の取り組み、ボランティアの果たしてきた役割を考察して、多文化共生にとっての課題について学ぶ。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：多言語社会のとらえ</p> <p>第2回：多言語政策</p> <p>第3回：多言語サービス・多言語支援</p> <p>第4回：言語マイノリティ</p> <p>第5回：国語と日本語政策</p> <p>第6回：国語教育と日本語教育</p> <p>第7回：「生活者としての外国人」に対する日本語教育</p> <p>第8回：年少者のための日本語教育</p> <p>第9回：移民の母語教育</p> <p>第10回：言語意識とコミュニケーション</p> <p>第11回：多言語能力と外国語産業</p> <p>第12回：言語接触と言語混交</p> <p>第13回：言語福祉という視点</p> <p>第14回：言語コミュニティ</p> <p>第15回：多言語・多文化共生</p>	
<p>テキスト：『多言語社会日本その現状と課題』多言語化現象研究会 編著 三元社(2013)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『公開講座 多文化共生論』米勢治子他著 ひつじ書房(2011)</p> <p>『世界の言語政策 第2集』山本忠行他著 くろしお出版(2007)</p> <p>『多言語社会がやつてきた—世界の言語政策Q&A—』河原俊昭他編著 くろしお出版(2004)</p> <p>『多文化共生キーワード事典』多文化共生キーワード事典編集委員会編著 明石書店(2010)</p>	
<p>学生に対する評価：授業での課題(50%)、レポート(50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での課題は、授業者の目標に対して提出された成果物の到達度を評価 ・レポートは、授業者の目標に対して提出されたレポートの文書構成と内容を評価 	

担当者	長谷川 紀子
科目名	外国語コミュニケーションI(英語)
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・グローバル社会におけるコミュニケーションツールとしての英語を理解する	
〔到達目標〕	
・英語の基礎構文を身に付ける、その構文を使用してある程度の英作文が書けるようにする。英語での自己表現を行うことができる	
・勉強としての英語ではなくコミュニケーションツールとして英語を認識する	
授業の概要	
<p>グローバル化に伴い、日本の就学前教育にも、多言語、多文化社会に対応できる教諭が求められるようになってきた。移民や、海外からの労働者、駐在員、国際結婚の子弟などに、柔軟に対応するための基本的な英語力に加え、多文化を共有する国際感覚を身に付けさせるとともに、文法・構文の確認、英字新聞・雑誌の吟味、国際解決型のディスカッション、北欧の幼稚園での多文化教育実践の紹介などをを行う。</p>	
授業計画	
第1回: オリエンテーション グローバル社会におけるコミュニケーションツールとしての英語	
第2回: 英語で自己を表現する。アイデンティティとは	
第3回: ツールとしての英語 基礎構文 5文型の定義	
第4回: ツールとしての英語 基礎構文 準動詞	
第5回: ツールとしての英語 基礎構文 比較	
第6回: ツールとしての英語 基礎構文 関係代名詞	
第7回: ツールとしての英語 基礎構文 分詞構文	
第8回: フィンランドの教育から 思考の地図を使って 授業内容紹介	
第9回: フィンランドの教育から 思考の地図を使って 英語の創作作文を作成する	
第10回: 小論文を書く(予定)自分のアイデンティティについて	
第11回: 小論文発表 プрезентーション(選抜)	
第12回: 言語とアイデンティティ 先住民族サメ 英語でのプレゼンテーション	
第13回: 特別ゲストを招いて(スウェーデンからの留学生 予定)討論会	
第14回: 英語の短い記事を読み自分の考えをまとめる 『Power Frase』より	
第15回: 英語の短い記事を読み自分の考えをまとめる Times英字新聞記事から	
テキスト: 『English Patterns 150』岡田伸夫監修 美盛社(2006)	
『基礎英作文問題叢書』(改訂版)花本金吾 旺文社(2007)	
『研究社 英文法・語法問題集』(改訂版)木村哲也著 研究社(2006)	
参考書・参考資料等: 各国の英語教科書など、『フィンランドに学ぶ教育と学力』庄井良信 中島博著 明石書店(2005)、『グローカル化時代の言語教育政策』岡戸浩子著 くろしお出版(2002)、『揺れる世界の学力マップ』佐藤学、澤野由紀子、北村友人編著 明石書店(2009)	
学生に対する評価: レポート内容(50%)、授業内での課題(50%)	
・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価	

担当者	長谷川 紀子
科目名	外国語コミュニケーションⅡ(英語)
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・幼稚園での英語教育実践	
〔到達目標〕	
・幼児に英語を教えるためのメソッドを知る	
・自分で授業考案を立て、模擬授業体験をする	
授業の概要	
就学前段階におけるバイリンガル教育が、ますます必要とされる現代に、幼稚園や保育園で簡単な授業を行うことのできる教諭を養成する。英語の歌、ダンス、ゲームなどの幼児が喜んで学ぶことのできる英語教育を実践する。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション 教材の紹介	
第2回：レクチャー紹介 lesson 1 自分について	
第3回：レクチャー紹介 lesson 2 家族について	
第4回：レクチャー紹介 lesson 3 色	
第5回：レクチャー紹介 lesson 4 数	
第6回：レクチャー紹介 lesson 5 動物	
第7回：レクチャー紹介 lesson 6 動作	
第8回：レクチャー紹介 lesson 7 アルファベット	
第9回：授業カリキュラム考案実践 教師役と生徒役に分かれロールプレイ 自己紹介	
第10回：授業カリキュラム考案実践 天気について チャートの使い方	
第11回：授業カリキュラム考案実践 動物について カードの使い方	
第12回：授業カリキュラム考案実践 一日の行動について 読み聞かせの方法	
第13回：授業カリキュラム考案実践 数、色の概念 ボードゲームを用いて	
第14回：フィードバック 各実践内容の評価と再構築	
第15回：テーマを決め一つの教材を作る	
テキスト：『Learning World 1』(改訂版)中本幹子著 アプリコット出版(2014)	
参考書・参考資料等：	
100 vocabulary words kids need to know by 4th grade . Keenan, S. ed. Scholastic. (2004)	
Master Skills English Grade 1. Gerber, C. ed. American Education Publishing (1995)	
The Broadway Cast Album of Maurice Sendak's Really Rosie. John H. P., Davis and Sheldon Riss, Alexander S. Bowers. Harper Collins publishers (1981)	
学生に対する評価：レポート(50%)、実践内容(50%)	
・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価	

担当者	施 祐妃
科目名	外国語コミュニケーションI(中国語)
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する	
〔到達目標〕	
・本講義のゴールは、学生に対して中国語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができるることを目指す	
授業の概要	
本講義では、主に中国で通用している北京語について、基本的な日常生活会話を教授する。また、言語学習の他、北京語を使うそれぞれの地域の文化と慣習も紹介する。	
本講義のゴールは、学生に対して北京語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が北京語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができることをを目指す。	
授業計画	
第1回：講義概要の説明、中国語の紹介	
第2回：中国語の基本表現(あいさつ)	
第3回：中国語の基本表現(お礼の表現)	
第4回：中国語の基本表現(質問の方法)	
第5回：中国語の基本表現(数字、日付、曜日などの言い方)	
第6回：中国語会話(自己紹介)	
第7回：中国語会話(家族について)	
第8回：中国語会話(趣味の尋ね方)	
第9回：中国語会話(買い物などの日常生活)	
第10回：中国語会話(褒め言葉などの表現)	
第11回：中国語会話(習い事などの表現)	
第12回：中国語会話(自国の紹介)	
第13回：中国語会話(学校についての各表現I)	
第14回：中国語会話(学校についての各表現II)	
第15回：まとめと復習	
テキスト：『新版実用視聴華語1』 国立台湾師範大学主編著 正中書局(2008)	
参考書・参考資料等：『新ゼロからスタート中国語文法編』 王丹著 Jリサーチ出版(2015)	
学生に対する評価：筆記試験(70%)、受講態度(30%)	
・筆記試験は、基礎的な中国語の理解度について評価	
・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価	

担当者	施 祐妃
科目名	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義のゴールは、学生に対して中国語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができることを目指す 	
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、外国語コミュニケーションⅠの内容を基礎として、より発展した内容を取扱う。講義では、主に北京語の中級日常生活会話を教授する。また、英語と北京語の対照表現なども紹介する。さらに、講義においては、学生が北京語で発言することを奨励する。本講義では、学生が外国人と接する際に自信を持って自らの意見を述べることができることを目指す。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：中国語会話(病気・病院に関する表現)</p> <p>第2回：中国語会話(外出時における会話表現)</p> <p>第3回：中国語会話(電話での会話表現)</p> <p>第4回：中国語会話(食事に関する表現)</p> <p>第5回：中国語会話(引越し等に関する表現)</p> <p>第6回：中国語会話(比較表現Ⅰ)</p> <p>第7回：中国語会話(比較表現Ⅱ)</p> <p>第8回：中国語会話(希望・願望に関する表現)</p> <p>第9回：中国語会話(歓談に関する表現)</p> <p>第10回：中国語会話(旅行に関する表現Ⅰ)</p> <p>第11回：中国語会話(旅行に関する表現Ⅱ)</p> <p>第12回：中国語会話(運動に関する表現)</p> <p>第13回：中国語会話(冠婚葬祭に関する表現Ⅰ)</p> <p>第14回：中国語会話(冠婚葬祭に関する表現Ⅱ)</p> <p>第15回：まとめと復習</p>	
<p>テキスト：『新版実用視聴華語2』 国立台湾師範大学主編著 正中書局(2008)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『新ゼロからスタート中国語文法編』 王丹著 Jリサーチ出版(2015)</p>	
<p>学生に対する評価：筆記試験(70%)、受講態度(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は、中国語の応用能力の到達度について評価 ・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価 	

担当者	田中 雅章
科目名	情報処理 I
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・社会における情報の取り扱いを知り、情報機器の操作を身につける	
[到達目標]	
・大学における学習で必要とする基本的な情報リテラシーを学び、無駄のない情報機器の操作を身につける	
・情報社会におけるモラルやマナー、情報発信等について理解し、情報の基礎知識を獲得する	
授業の概要	
<p>近年は社会の現場において情報技術が必要とする事が多くなった。普通科情報の教科とは異なり、修得した情報技術が保育の現場で活用できるようなカリキュラムを行う。その内容を具体的に述べると、情報検索、正しい情報発信、情報機器の基本操作、文書作成となる。正しい情報発信では個人情報と社会モラルの順守を学び、トラブルが起きない知識を得る。文書作成では公文書の作成からおたよりや制作物の方法を修得し保育の現場で役立つ技術を身につける。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション、インターネットの基本、情報機器の基本操作	
第2回：Windowsの基本操作、ペイント、タッチタイピング	
第3回：PowerPointの基礎、著作権、モラルとマナー、個人情報保護	
第4回：PowerPointの応用、フォトレタッチ、ワードアート、ポスターの作成	
第5回：PowerPointで課題作成と提出	
第6回：Wordの基礎、文字入力、ファイルの保存、表示、印刷	
第7回：ページレイアウト(ページ設定、段落、配置)	
第8回：文章の作成と編集、文字の修飾、表の作成と編集	
第9回：図形を活用した文章の作成	
第10回：ビジネス文書基礎の実技試験	
第11回：タイピング実践基礎、文書作成の基礎	
第12回：タイピング実践応用、文書作成の応用	
第13回：ビジネス文書作成基礎	
第14回：ビジネス文書作成応用	
第15回：ビジネス文書応用の実技試験	
テキスト：『30時間でマスター Office2013』実教出版編修部著 実教出版(2014)	
参考書・参考資料等：『30時間アカデミック Word&Excel2013』杉本くみ子他著 実教出版(2013)	
学生に対する評価：実技試験(60%)、提出物(20%)、授業の取り組み姿勢(20%)	
・実技試験は、情報機器を活用して日本語の入力および文書処理能力を評価	
・提出物は、授業の中で課題に対する成果物を評価	
・授業の取り組み姿勢は、シャトルカードへの記入内容を評価	

担当者	田中 雅章
科目名	情報処理II
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・情報の処理方法を知り、実践的な情報処理技術を身につける	
〔到達目標〕	
・大学における学習で必要とされる基本的な情報リテラシーを学び、無駄のないデータ処理方法を身につける	
・Excelを使ったデータ処理とWordやPowerPointへの連携操作を身につける	
授業の概要	
<p>情報処理Iで学習した内容を基礎として、より高度な情報技術を修得するカリキュラムとなっている。前半では、チラシやポスター作成など、ビジュアルでわかりやすい文書作成技術を修得する。後半では、事務処理でよく活用される基礎的なデータ処理技術を修得する。目標とする文書作成技術は、バランスのとれた構図や画像素材を効果的に活用することで、児童向けのポスターが制作できる力を養うことがある。データ処理では、基礎的な表計算処理ができるようにする。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション、Excelの基本操作とWordとの違い	
第2回：Excelの計算式と基本関数	
第3回：Excelの表作成と編集、絶対指定	
第4回：Excelのグラフ作成と編集	
第5回：Excelのデータ検索と並べ替え	
第6回：Excelの論理関数	
第7回：Wordによるビジュアルな文書作成の基礎	
第8回：Wordによる画像と図形の操作	
第9回：Wordによるビジュアルな文書作成の応用	
第10回：Wordによる版組みの操作	
第11回：Wordによるポスター作成	
第12回：Wordによるポスター作品提出	
第13回：ExcelからWordへ表やグラフを貼り付けとPDFファイルの作成	
第14回：ExcelからPowerPointへ表やグラフを貼り付けとPDFファイルの作成	
第15回：ビジネス計算応用の実技試験	
テキスト：『30時間でマスター Office2013』実教出版編修部著 実教出版(2014)	
参考書・参考資料等：『30時間アカデミック Word&Excel2013』杉本くみ子他著 実教出版(2013)	
学生に対する評価：実技試験(60%)、提出物(20%)、受講態度(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> 実技試験は、情報機器を活用して日本語の入力および文書処理能力を評価 提出物は、授業の中で課題に対する成果を評価 授業の取り組み姿勢は、シャトルカードの記入内容を評価 	

担当者	鬼塚 紗子
科目名	スポーツ・レクリエーション実技
開講時期	1年 通年 選択
開講区分	教養科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの必要性を理解し、体力維持に努める方法を知る <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を維持増進するための運動に取り組む ・家族で楽しみながら運動する方法を知る 	
<p>授業の概要</p> <p>講義では、身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努める必要性を知る。生涯にわたって豊かな生活を営むために、必要な運動の技能や知識を習得する大切さを学ぶ。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、様々な身体コミュニケーションを行うことの意義について理解を深める。</p> <p>具体的には、運動・スポーツを通して主体性・協調性・社会性・道徳性などを養う。また、幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強を図る。さらに幼児教育者として適切に動き、子どもを援助指導できるように運動機能の資質の向上を図る。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（チャレンジ・ザ・ゲーム）</p> <p>第2回：ウォーキングによる有酸素性運動の実践</p> <p>第3回：ウォーミングアップとクーリングダウン（ストレッチの実践）</p> <p>第4回：基礎体力を高めるトレーニング法（なわとび・大なわとび）</p> <p>第5回：スポーツ実践（マット運動・平均台）</p> <p>第6回：スポーツ実践（跳び箱）</p> <p>第7回：スポーツ実践（バトンパスを考慮したリレー走）</p> <p>第8回：スポーツ実践（バスケットボール）</p> <p>第9回：スポーツ実践（バトミントン）</p> <p>第10回：スポーツ実践（ライトドッジボール）</p> <p>第11回：ボールを使った運動</p> <p>第12回：ロープを使った運動</p> <p>第13回：新聞紙を使った運動</p> <p>第14回：何も使わない運動</p> <p>第15回：体育館でもできるフィールドアスレチックの体験</p> <p>第16回：スポーツ実践（徒競走、障害物競走）</p> <p>第17回：スポーツ実践（バトンを使ったリレー、正しいバトンパス）</p> <p>第18回：スポーツ実践（模擬リレー競争）</p> <p>第19回：スポーツ実践（バドミントンの基本と規則と模擬トーナメント）</p> <p>第20回：スポーツ実践（ライトドッジボールを使った基本）</p> <p>第21回：スポーツ実践（ライトドッジボールを使った模擬試合）</p> <p>第22回：スポーツ実践（ソフトスポンジボールを使ったフットサルの基本とルール）</p> <p>第23回：スポーツ実践（フットサル模擬試合）</p>	

第24回：フラフープを使った運動

第25回：ドッジビーを使った運動

第26回：ロープを使った運動

第27回：新聞紙を使った運動

第28回：何も使わない運動

第29回：体育館でできるフィールドアスレチック体験

第30回：まとめ

テキスト：『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会編集・発行(2015)

『楽しいアイスブレーキング集』日本レクリエーション協会編集・発行(2011)

『コミュニケーションを深めるソング・ダンス集』日本レクリエーション協会編集・発行(2004)

参考書・参考資料等：なし

学生に対する評価：受講態度(50%)、実技テスト(50%)

・受講態度は、他の受講者と協調性をもって授業への参加状態を評価

・実技テストは、授業者が示した目標の達成度を評価

担当者	堀 建治
科目名	保育原理
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育」の基本について学ぶ <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義や保育所保育の基本について理解する ・保育の内容と方法の基本について理解する ・保育の現状と課題について学ぶ 	
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、保育の本質及び目的、保育所保育の特性、子どもの発達、保育内容・方法、保育施設の歴史や保育思想、保育制度、現代の保育をめぐる問題など、保育者を目指す学生にとって必要となる保育の基本的事項を講義形式にて幅広く取り上げ、講ずる。以上から保育のあり方や保育の専門職としての確かな知識の基盤を形成することを目的とする。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：こども観と保育</p> <p>第2回：保育所の役割と保育の本質</p> <p>第3回：保育の「ねらい」と「内容」</p> <p>第4回：子どもの発達過程と保育</p> <p>第5回：保育における「環境」</p> <p>第6回：こども理解とは①(乳児)</p> <p>第7回：こども理解とは②(幼児)</p> <p>第8回：保育所・幼稚園・認定こども園の相違</p> <p>第9回：保育の計画と記録・評価</p> <p>第10回：保育士の専門性</p> <p>第11回：日本と世界の保育における保育の歴史と思想</p> <p>第12回：日本における保育施策の現状と課題</p> <p>第13回：多様な保育ニーズと子育て支援</p> <p>第14回：保育の方法</p> <p>第15回：家庭・地域との連携</p>	
<p>テキスト：『保育所保育指針概観書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)</p>	
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>	
<p>学生に対する評価：定期試験(80%)、課題・リフレクションペーパー(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験内容は、授業で取り上げた基本的知識が身についているかどうかによって評価 ・課題・リフレクションペーパーは、理解度、質問、復習の状況などをもとに評価 	

担当者	宮坂 朋幸、伊藤 喬治
科目名	教育原理
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<ul style="list-style-type: none"> ・「教育」や「学校」といった教育学の基本的な概念、 またはその歴史について理解する ・教育制度や教育課程など、学校教育に関する枠組みを理解する ・学習指導案や教育方法、教師の役割など、学校教育の中身について理解する ・教育に関わる現代的な課題について主体的・批判的に検討し、考える能力を身につける 	
授業の概要	
<p>社会の変化とともに、教育のあり方は、国の内外を問わず、常に変動を続けてきた。教育のあり方とは、教育思想、制度、教育方法・技術など教育を与える側のあらゆる面での変化である。また、子どもが過ごす場である家庭、地域のあり方の変化である。これら社会の変化とともに教授―学習のあり方もそれに規定され、変化してきたといえよう。教職を目指す学生にとって、子どもを取り巻く現代の環境がいかなる状況であり、またどのような課題を孕んでいるのかについても考察することは必須である。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション、教育への意味の理解の確認	
第2回：教育は人間にとてなぜ必要か	
第3回：教育内容と教育課程(1) 一教育と学習観	
第4回：教育内容と教育課程(2) 一カリキュラムとは	
第5回：授業づくりと教材 一教材とは	
第6回：学習指導案の意義	
第7回：教師の役割と専門性	
第8回：現代の教育問題(1) 一教育格差と格差の再生産	
第9回：現代の教育問題(2) 一いじめの理論	
第10回：外国の教育現場から学ぶ	
第11回：西洋社会の子育て観：コメニウス・ロック・ルソー	
第12回：日本近世社会の子育て観：生育の祝い・貝原益軒・手習い塾	
第13回：日本近代の学校と教育思想：「学制」・福沢諭吉	
第14回：義務教育制度と教育思想：就学保障・就学猶予・児童中心主義	
第15回：現代の子ども観と教育：教育基本法・児童福祉法・消費者マインド	
テキスト：『教育原理』小田豊、森眞理編著 北大路書房(2009)	
参考書・参考資料等：『やさしい教育原理 新版補訂版』田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著、池田隆英、楠本恭之、中原朋生編著 有斐閣(2011)	
『なぜからはじめる教育原理』岡田典子、滝沢潤、光田尚美、湯藤定宗、渡邊言美共著 建帛社(2015)	
『教育用語辞典』山崎英則、片上宗二編著 ミネルヴァ書房(2003)	
『教育原論』柴田義松、山崎準二編著 学文社(2009)	
学生に対する評価：筆記試験(70%)、アクティビティ等への参加及び提出物(30%)	

担当者	安藤 和彦
科目名	児童家庭福祉
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉について理解する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する ・児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する ・児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する ・児童家庭福祉の現状と課題について理解する ・児童家庭福祉の動向と展望について理解する 	
<p>授業の概要</p> <p>社会福祉の一分野としての児童家庭福祉について、今日の大きな社会問題の一つである少子高齢化社会を踏まえて、現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、保育、制度と実施体系並びに現状と課題及び動向と展望について解説する。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：児童家庭福祉の理念と変遷</p> <p>第2回：児童家庭福祉の歴史的変遷</p> <p>第3回：現代社会と児童家庭福祉及び児童家庭福祉の一分野としての保育</p> <p>第4回：児童の人権擁護と児童家庭福祉</p> <p>第5回：児童家庭福祉の制度と法体系</p> <p>第6回：児童家庭福祉行財政と実施機関</p> <p>第7回：児童家庭福祉の専門職・実施者及び児童福祉施設等</p> <p>第8回：少子化と子育て支援サービス</p> <p>第9回：多様な保育ニーズへの対応</p> <p>第10回：児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス</p> <p>第11回：社会的養護</p> <p>第12回：障がいのある児童への対応</p> <p>第13回：少年非行等への対応及び母子保健と児童の健全育成</p> <p>第14回：次世代育成支援と児童家庭福祉の推進</p> <p>第15回：保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク及び諸外国の動向</p>	
<p>テキスト：『児童家庭福祉—子どもの幸せを考える』流石智子編著 あいり出版(2012)</p>	
<p>参考書・参考資料等：随時紹介する</p>	
<p>学生に対する評価：筆記試験(90%)、受講態度(10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価 	

担当者	田村 賢章
科目名	社会福祉
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士、幼稚園教諭として社会福祉の理念、制度の実際を学び社会福祉の本質を理解する <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職として必要となる社会福祉基礎知識と意識・態度を身につける。社会福祉の理念を体現でき、制度の理解があり、関心をもてる専門職の基礎を培うこと目標とする 	
<p>授業の概要</p> <p>社会福祉は歴史的形成本である。社会福祉を理解するためには、まず社会福祉諸制度の成立とその展開過程について知ることが重要となる。本講では、社会福祉諸制度の歴史的変遷を手掛かりに社会福祉の制度や施策の全体像を理解することを目的とする。社会福祉の用語理解のみに留まらず、現代社会における社会福祉の意義や理念、相談援助や利用者支援の価値を体得することを学習の中心に位置づける。その際、幼児教育や保育を学ぶ学生の生活課題や生活実態に近づけた講義を展開する。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会福祉へのみちびき～私たちの生活と社会福祉～</p> <p>第2回：社会福祉を学ぶ(1)～社会福祉の理念と法的定義～</p> <p>第3回：社会福祉を学ぶ(2)～社会福祉と社会保障の構造と体系～</p> <p>第4回：社会福祉のあゆみ(1)～欧米の社会福祉の歴史(諸外国の社会福祉)～</p> <p>第5回：社会福祉のあゆみ(2)～日本の社会福祉の歴史(明治～昭和)～</p> <p>第6回：社会福祉のあゆみ(3)～日本の社会福祉の歴史(昭和～平成)～</p> <p>第7回：社会福祉基礎構造改革と社会福祉制度のしくみ～社会福祉法を学ぶ～</p> <p>第8回：社会保障及び関連諸制度の概要(1)～公的扶助の概念と生活保護制度～</p> <p>第9回：社会保障及び関連諸制度の概要(2)～年金保険制度と社会保険制度～</p> <p>第10回：高齢者の福祉制度とその動向(1)～介護保険制度の構造～</p> <p>第11回：高齢者の福祉制度とその動向(2)～介護保険制度の実際～</p> <p>第12回：障がいのある人の制度とその動向～障害者自立支援法をめぐって～</p> <p>第13回：子どもと家庭の福祉制度～社会的養護を考える～</p> <p>第14回：子どもと家庭の福祉制度とその動向～虐待の実態をめぐって～</p> <p>第15回：地域の福祉活動とその意義～地域福祉の主体形成と福祉教育～</p>	
<p>テキスト：『社会福祉を学ぶ』 山田美津子・稻葉光彦編著 みらい(2013)</p> <p>『福祉小六法2016』 みらい</p>	
<p>参考書・参考資料等：『厚生労働白書』なども適宜参考とされたい</p> <p>『福祉新聞』(福祉新聞社)は講義内において使用する場合がある</p>	
<p>学生に対する評価：筆記試験(70%)、講義ノート作成(10%)、レポート課題(10%)、受講態度(10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は、必要な知識の理解度について評価 ・講義ノート作成は、授業者が期末に回収し、記載内容を精査し評価 ・レポート課題は、授業の提示した課題に対する成果物を評価 ・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価 	

担当者	丸山あけみ
科目名	相談援助
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者として必要な相談援助の価値・知識・技術の習得 <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者として必要なソーシャルワークの価値・知識を身につけることができる ・ロールプレイ等により、ソーシャルワークの基礎技術を身につけることができる 	
<p>授業の概要</p> <p>本講では、将来、保育者として活躍していくうえで必要なソーシャルワークの価値・知識・技術の体得を目指す。ソーシャルワークは、生活上の困難を抱える人々に対して、多様な手段を用いることにより、利用者によりよい生活を支援していくものである。相談援助を学ぶことは、子どもに対する理解の深化に留まらず、子どもを取り巻く家族や地域社会を知ることにもつながる。講義の中では、実際の相談場面を想定したロールプレイ等を行うことにより、より実践的なソーシャルワークの学習を目指す。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：相談援助の理論</p> <p>第2回：相談援助の意義</p> <p>第3回：相談援助の機能</p> <p>第4回：相談援助とソーシャルワーク</p> <p>第5回：保育とソーシャルワーク</p> <p>第6回：相談援助の対象</p> <p>第7回：相談援助の過程</p> <p>第8回：相談援助の技術・アプローチ</p> <p>第9回：相談援助の計画・記録・評価</p> <p>第10回：相談援助の関係機関との協働</p> <p>第11回：相談援助の多様な専門職との連携</p> <p>第12回：相談援助の社会資源の活用、調整、開発</p> <p>第13回：ロールプレイによる事例分析</p> <p>第14回：虐待の予防と対応等の事例分析</p> <p>第15回：障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析</p>	
テキスト：『基本保育シリーズ5 相談援助』松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 中央法規(2015)	
参考書・参考資料等：『ソーシャルワーカーという仕事』宮本節子著 筑摩書房(2013)	
<p>学生に対する評価：筆記試験(50%)、授業態度(50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	安藤 和彦
科目名	社会的養護
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの社会的養護の意義を理解する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護を必要とする子どもに対する自立支援を支える制度理解をし、現場実践の概要を理解する ・社会的養護の援助方法の実践、対応について把握し、社会資源の在り方についても展望できる能力を培う 	
授業の概要	
<p>子どもは生まれたその時から、“社会”生活を送ることとなる。特に、家庭は「第2の子宮」と言われるように子どもを育む重要な要素がある。そういった家庭での養護が困難な児童のための施策が社会的養護である。本講義では、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷からはじまり、児童福祉との関連性に留意しながらその制度や実施体系などについて講義を展開する。また、社会的養護に関わる専門職や社会的養護とソーシャルワークとの関連等について学ぶ。</p>	
授業計画	
<p>第1回：社会的養護の理念と概念</p> <p>第2回：社会的養護の歴史的変遷</p> <p>第3回：児童家庭福祉の一分野としての社会的養護</p> <p>第4回：児童の権利と社会的養護</p> <p>第5回：社会的養護の制度と法体系</p> <p>第6回：社会的養護の仕組みと実施体系</p> <p>第7回：家庭養護と施設養護</p> <p>第8回：社会的養護の専門職・実施者</p> <p>第9回：施設養護の基本原理</p> <p>第10回：施設養護の実際</p> <p>第11回：施設養護とソーシャルワーク</p> <p>第12回：施設等の運営管理の現状と課題</p> <p>第13回：倫理の確立</p> <p>第14回：被虐待児等の虐待防止の現状と課題</p> <p>第15回：社会的養護と地域福祉の現状と課題</p>	
テキスト：『社会的養護』相澤仁・林浩康編 中央法規(2015)	
参考書・参考資料等：	
<ul style="list-style-type: none"> ・『「家族」をつくる』村田和木 中公新書ラクレ(2005) ・『児童相談所はいま—児童福祉司からの現場報告』斎藤幸芳・藤井常文編 ミネルヴァ書房(2012) ・『厚生労働白書』なども適宜参考 ・『福祉新聞』(福祉新聞社)は講義内において使用する場合がある 	
学生に対する評価：筆記試験(80%)、受講態度(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験については、必要な知識の理解度について評価 ・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価 	

担当者	安藤 和彦
科目名	教職概論
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・教職者について理解する	
[到達目標]	
・教職者の役割と倫理、制度的な位置づけ、専門性、協働、専門的成长について理解する	
授業の概要	
教育制度に関する様々な歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身に付けるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。	
授業計画	
第1回：保育の意味	
第2回：教職者の意味	
第3回：教職者の役割	
第4回：西洋の保育・教育思想	
第5回：わが国の保育の歴史	
第6回：わが国の保育思想の歴史	
第7回：教職者の地位	
第8回：保育者・教育者と法	
第9回：保育者・教育者の要件	
第10回：保育の基本姿勢	
第11回：教職者の資質・能力・要件と養成	
第12回：教職課程・保育課程と自己評価	
第13回：専門性の発達とキャリア形成	
第14回：保育ニーズの多様化	
第15回：子育て支援・地域社会とのかかわり	
テキスト：『保育・教育を考える—保育者論から教育論へ—』田中亨胤、越智哲治、中島千恵著 あいり出版(2011)	
参考書・参考資料等：特になし	
学生に対する評価：筆記試験(80%)、受講態度(20%)	
・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価	

担当者	八木 朋子
科目名	教育心理学
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>・教育心理学は、教育や子どもの発達について心理学的に理解する心理学の領域の一つである。ここでは、学習・発達・性格・教育評価など教育心理学の基礎的知識の習得を目指す。また、基礎的知識をもとに専門家として保育実践に応用できる力量の担保を目的とする</p>	
授業の概要	
<p>教育心理学の基礎知識を、乳幼児期・児童期(障害児を含む)に焦点を当てて学ぶ。教育心理学の歴史を概観し、子どもの知的発達や学びのプロセスを理解するために、子どもの発達や知能、性格、学習のメカニズム、意欲や動機づけ、その評価等についても学び、保育や教育現場で役立てられることを目的とする。また、これらを学ぶことで、表面上ではなく子どもたちの背景を正しく把握する力や対処法を身に付けていくことを狙いとする。</p>	
授業計画	
第1回：教育心理学の領域と目的・研究方法	
第2回：発達の原理と段階	
第3回：発達の諸相と教育	
第4回：学習とは／学習理論	
第5回：記憶とは	
第6回：知能とは	
第7回：動機づけ／学習意欲	
第8回：学習指導と教授法	
第9回：学級集団の働きとその指導	
第10回：教育評価の意義と方法	
第11回：子どもの性格／パーソナリティ理論	
第12回：適応とは	
第13回：欲求不満と防衛機制	
第14回：障がいのある子どもへの理解	
第15回：障がいのある子どもへの援助	
テキスト：『保育のためのやさしい教育心理学』高村和代、安藤史高、小平英志著、ナカニシヤ出版(2009)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編、フレーベル館(2008) 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館(2008) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：レポート(45%)、試験(45%)、授業態度(10%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	八木 朋子
科目名	保育の心理学
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める	
〔到達目標〕	
・保育実践にかかわる心理学の知識を習得する	
・子どもの発達にかかわる心理学の知識を習得し、子どもへの理解を深める	
授業の概要	
<p>実践の場に於いて、子ども理解が深められるように、各時期の発達特徴とその背景を理論的に把握する。保育に従事する者として、経験だけではなく、理論を理解した上で実践することは大変重要なことである。発達の意味や、身体・知覚・認知・感情・言語・社会性の発達などについて学び、子どもへの理解を理論上からも深めることで、より適切な関わりができるようになることを目的とする。</p>	
授業計画	
第1回：ガイダンス(講義の目的と目標)	
第2回：保育と心理学①(子どもの発達を理解することの意義)	
第3回：保育と心理学②(保育実践の評価と心理学)	
第4回：子どもの発達の理解①(発達と環境)	
第5回：子どもの発達の理解②(身体・運動機能の発達)	
第6回：子どもの発達の理解③(知覚と認知の発達)	
第7回：子どもの発達の理解④(感情の発達)	
第8回：子どもの発達の理解⑤(言語の発達)	
第9回：子どもの発達の理解⑥(社会性の発達)	
第10回：生涯発達の理解①(生涯発達と発達援助)	
第11回：生涯発達の理解②(胎児期・新生児期)	
第12回：生涯発達の理解③(乳幼児期)	
第13回：生涯発達の理解④(児童期)	
第14回：生涯発達の理解⑤(思春期・青年期)	
第15回：生涯発達の理解⑥(成人期・老年期)	
テキスト：『保育の心理学—子どもたちの輝く未来のために』相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著 ナカニシヤ出版(2013)	
参考書・参考資料等：	
学生に対する評価：レポート(45%)、試験(45%)、授業態度(10%)	
・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価	
・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	片山 恵里
科目名	子どもの保健 I
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	教養科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・保育者として子どもの発達・成長を知る	
〔到達目標〕	
・保育者として子どもの健康に関する情報収集ができ日常生活を送ることができる	
・子どもの心身の発達・成長を促すため、環境衛生や安全に基づく保育を行うことができる	
授業の概要	
<p>出生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象とするが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱う。成長発達の途上において各臓器には様々な臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起される。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要である。これらの知識を基本として、三つの健康(身体の健康、心の健康、社会の健康)を重視する視点を習得する。将来、保育士としてのみならず自身の育児に役立つ講義にしたい。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション(授業の進め方)、発達段階からみた小児期の区分と特性	
第2回：小児と健康問題と小児を取り巻く環境	
第3回：子どもの最善の利益にかなう医療	
第4回：成長・発達に関する概念と理論	
第5回：小児を取り巻く医療の変遷と課題	
第6回：VTR学習(子どもの安全を守る)	
第7回：小児の成長・発達の原則と影響因子	
第8回：小児の生活を支える成長と機能の発達	
第9回：小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援①(動く・眠る・食べるについて)	
第10回：小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援②(排泄する・身だしなみを整えるについて)	
第11回：小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援③(見る・聞く・話す・感じる・考える・人とかかわるについて)	
第12回：小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援④(遊ぶ・学ぶ・性を生きるについて)	
第13回：小児を守る法律と制度①(母子保健対策)	
第14回：小児を守る法律と制度②(学校保健対策)	
第15回：VTR学習(法律と虐待)	
テキスト：『小児看護学概論・小児保健』松尾宣武編著 メディカルフレンド社(2013)	
参考書・参考資料等：なし	
学生に対する評価：進度確認試験(70%)、課題(30%)	
・進度確認試験は専門職として必要な知識の理解度について評価	
・課題は、授業者の指示するレベルに到達するかどうかを勘定して評価	

担当者	山野 栄子
科目名	子どもの保健II
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの生命の保持と健康及び安全について、正しい知識と技術を身につける <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの疾病やその予防方法、および適切な対応について学ぶ 保育における環境及び衛生管理・安全管理について具体的に学ぶ 救急時の対応や事故防止、安全管理を個人と集団生活とで理解する 地域や家庭との連携のもと保健活動を推進する重要性を学ぶ 	
<p>授業の概要</p> <p>保育所保育指針に「養護と教育」が一体的に展開されることが明確化され、子どもの健康・安全を確保するために計画的に実施していくことが、基本であると明記されている。そのことを踏まえ、一人一人の子どもが心身共に健やかに育つために子どもの特性を知り、安全管理や衛生管理、病気や事故の予防、異常の早期発見、対処の基本など具体的に事例を取り入れ、共に考え学び合う。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(授業の進め方)</p> <p>第2回：健康状態の評価(健康状態の把握・観察の重要)</p> <p>第3回：基本的な生活習慣と健康</p> <p>第4回：子どもの栄養(食育・アレルギー児の対応)</p> <p>第5回：子どもによくみられる症状と対処法</p> <p>第6回：子どものかかりやすい病気の症状と対処法</p> <p>第7回：感染症の対処法</p> <p>第8回：集団生活における病気の予防と対策</p> <p>第9回：子どもの事故と応急処置</p> <p>第10回：子どもの事故防止と安全教育 ①子どもの発達と事故</p> <p>第11回：子どもの事故防止と安全教育 ②事故予防の留意点</p> <p>第12回：保育環境と衛生管理</p> <p>第13回：保育現場の安全対策と危機管理(火災や自然災害・不審者など)</p> <p>第14回：家庭・専門機関・地域との連携及び母子保健対策</p> <p>第15回：今までの振り返りとまとめ</p>	
<p>テキスト：『保育を学ぶ人のための子どもの保健I』堀浩樹、梶美穂編著 建帛社(2014)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『保育保健の基礎知識』巻野悟郎監修 日本小児医事出版社(2013)</p>	
<p>学生に対する評価：課題・レポート・小テスト(70%)、受講態度(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題・レポートは、分量や内容、小テストは授業内容の理解度から評価 受講態度は、授業への参加姿勢や、提出期限などをもとに評価 	

担当者	山野 栄子
科目名	子どもの保健III
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・子どもの生命の保持と健康と安全について、正しい知識と技術を身につける	
[到達目標]	
・子どもの発達、発育に応じた養護の内容・方法を理解し、知識や技術・援助力を習得する	
・子どもの健康管理・安全管理について(緊急時の対応も含め)適切な知識や方法を理解し、具体的に学び身に付ける	
・子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画や評価について学ぶ	
・心の問題や環境、地域保健活動についても理解をする	
授業の概要	
乳児期・幼児期の発達段階に応じた子どもの健康の保持増進や保育現場において起こりうる健康上の問題について学習するとともに、乳児の抱き方や身体計測など養護の方法について実習を行う。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション(保健演習の意義と基本)	
第2回：保育者の健康管理と手洗い	
第3回：子どもの保健と母子保健	
第4回：乳幼児の養護(抱き方・背負い方・衣服の着脱)	
第5回：乳幼児の養護(授乳・食事、排泄・おむつ交換)	
第6回：身体測定	
第7回：生理機能の測定	
第8回：精神機能と運動機能の発達評価	
第9回：歯の健康と疾病予防・手当て・薬	
第10回：身体の清潔と保育環境衛生、保健活動計画と記録	
第11回：事故防止と安全対策・応急処置、アレルギー児の対応	
第12回：災害等緊急時の備えと危機管理	
第13回：心肺蘇生法① 演習	
第14回：心肺蘇生法② CPRとAED	
第15回：健康問題と地域保健活動・振り返り	
テキスト：『子どもの保健演習ガイド』高内正子編著 建帛社(2015)	
参考書・参考資料等：『保育保健の基礎知識』巻野悟郎監修 日本小児医事出版社(2013)	
学生に対する評価：受講・実習態度(70%)、課題・レポート提出(30%)	
・受講・実習態度は、真面目に且つ意欲的に取り組む姿勢や内容の理解度、習熟度で評価 (自らの生活態度や健康管理についても評価の対象に含む)	
・課題・レポートは、内容の分量や質および提出期限などをもとに評価	

担当者	井手 裕子
科目名	こどもの食と栄養
開講時期	2年 通年 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・保育者は子どもの健康にとって望ましい食生活と支援を常に考え的確に捉えて実践する	
〔到達目標〕	
・五大栄養素・食品・料理(主食・主菜・副菜)の関係が説明できる	
・子どもの発達と栄養摂取法・食生活の関係を説明できる	
・調乳方法及び離乳食の適切な味・形態・量を理解し、実践できる	
・子どもを取り巻く食の現状と課題から、食育の必要性、その内容を理解し、実践できる	
・特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる	
授業の概要	
<p>保育園で過ごす時期は、子どもが浮兒から幼児へと体格的にも精神的にも大きく成長する期間である。この時期に摂取する必要がある栄養素とは何か、各栄養素の性質や栄養素が不足することによって発生する欠乏症について解説する。まだ歯が生えそろわない5~6か月の時期に、食べやすいトロミ食やキザミ食など具体的な離乳食の紹介をする。この時期は、初めて食品を口にするため食物アレルギー事故が最も多い時期でもある。小児アレルギーの発生とその対応、緊急時におけるアドレナリン自己注射まで解説する。</p>	
授業計画	
第1回：小児期の食生活の重要性	
第2回：食に関する器官の発育と発達	
第3回：栄養に関する基礎知識 食べ物のゆくえ	
第4回：栄養に関する基礎知識 栄養素の種類と働き	
第5回：栄養に関する基礎知識 日本人の食事摂取基準	
第6回：栄養に関する基礎知識 食事構成に関する基礎知識	
第7回：乳児期の食生活 乳汁栄養(母乳栄養)	
第8回：乳児期の食生活 乳汁栄養(人工栄養)	
第9回：乳児期の食生活 離乳の意義、離乳の必要性	
第10回：乳児期の食生活 離乳の進め方、調理の特徴	
第11回：乳児期の食生活 演習 食べる機能の発達と離乳食	
第12回：乳児期の食生活 演習 離乳食 市販のベビーフードを味わう	
第13回：幼児期の食生活 幼児期の栄養の特徴 食事の留意点	
第14回：幼児期の食生活 成長に意義ある間食について	
第15回：幼児期の食生活 演習 間食を考える	
第16回：保育所給食 意義と内容	
第17回：保育所給食 食生活指導① 紹介を通しての食生活指導	
第18回：保育所給食 食生活指導② 食物アレルギーと給食	
第19回：学校給食 学童期・思春期の食生活	
第20回：生涯発達と食生活 胎児期からの生涯発達について(胎児と母体)	
第21回：子どもの食生活の現状 食卓の視点と三重県民の健康状態から考える	

第22回：配慮の必要な子どもの食生活 偏食、虫歯、かめない子について
第23回：配慮の必要な子どもの食生活 疾病及び体調不良の子どもへの対応
第24回：配慮の必要な子どもの食生活 食物アレルギー（アレルギーガイドライン）

除去食、代替食とアナフィラキシーショックの対応

第25回：食育 演習 保育所、幼稚園における食育

第26回：食育 演習 保護者に向けての便りの作成

第27回：食育 調理保育を考える（指導案作り）

第28回：食育 調理実習① 幼児食 子どもも参加できる料理の調理と試食

第29回：食育 調理実習② 幼児食 子どもも参加できる間食の調理と試食

第30回：まとめ 保育者に求められることを「子ども」「食」から考える

テキスト：『子どもの食と栄養[第2版]』峯木真知子、高橋淳子著 みらい（2015）

参考書・参考資料等：『新版 子どもの食生活』上田玲子著 ななみ書房（2011）

学生に対する評価：定期試験（50%）、受講態度（30%）、レポート課題（20%）

- ・定期試験は、専門職としての必要な知識の理解度について評価
- ・受講態度は、協調性に努めながら、グループワークや実習に参加する姿勢を評価
- ・レポート課題は、授業者が提示した課題に対して記述された内容を評価

担当者	安藤 和彦
科目名	家庭支援論
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・家庭支援について理解する	
[到達目標]	
・家庭の意義とその機能について理解する	
・子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する	
・子育て家庭の支援体制について理解する	
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する	
授業の概要	
急速な少子化が進行し又、結婚・出産・子育ての希望がかなえられない現状にありさらに、子ども・子育てを取り巻く環境も大きく変化してきているが、子ども・子育て支援が質・量共にまだまだ不足している。そこで家庭支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制と多様な支援の展開と関係機関との連携について解説する。	
授業計画	
第1回：家庭の意義と機能	
第2回：家庭支援の必要性	
第3回：保育士等が行う家庭支援の原理	
第4回：現代の家庭における人間関係	
第5回：地域社会の変容と家庭支援	
第6回：男女共同参画社会	
第7回：ワークライフバランス	
第8回：子育て家庭の福祉を図るための社会資源	
第9回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	
第10回：子育て支援サービスの概要	
第11回：保育所入所児童の家庭への支援	
第12回：地域の子育て家庭への支援	
第13回：要保護児童及びその家庭への支援	
第14回：子育て支援における関係機関との連携	
第15回：子育て支援サービスの課題	
テキスト：『家庭支援論—子どもの育ちと子育てのために』 安藤和彦編著 あいり出版(2014)	
参考書・参考資料等：随時紹介する	
学生に対する評価：筆記試験(90%)、受講態度(10%)	
・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価	

担当者	渡辺 一弘
科目名	教育課程論
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>・幼稚園における教育課程を理解し、保育所の状況も踏まえて、それを具体化した指導計画を自分で作成できるようになる</p>	
授業の概要	
<p>本授業では、幼稚園の教育(保育)がどのような道筋をたどって進められるかを、保育所の状況も踏まえて、全体的な計画を示す教育課程(保育課程)と、それを具体化した指導計画について、具体例を示しながら講義を行い、各自指導計画の作成を行う。</p>	
授業計画	
<p>第1回：カリキュラム編成における保育者の選択と課題</p>	
<p>第2回：日本の幼児教育(保育)カリキュラムの思想と歴史</p>	
<p>第3回：海外の幼児教育(保育)カリキュラムの思想と歴史 ①19世紀までの幼児教育(保育)カリキュラムの思想</p>	
<p>第4回：海外の幼児教育(保育)カリキュラムの思想と歴史 ②20世紀以降の幼児教育(保育)カリキュラムの思想</p>	
<p>第5回：保育所と幼稚園におけるカリキュラム編成</p>	
<p>第6回：教育課程編成に必要な2つの視点とその実際</p>	
<p>第7回：教育課程作成のための子どもも理解・観察の方法</p>	
<p>第8回：子どもの発達過程に応じた教育課程の内容</p>	
<p>第9回：長期指導計画の編成と事例 ①指導計画の種類と長期指導計画の編成</p>	
<p>第10回：長期指導計画の編成と事例 ②長期指導計画の事例</p>	
<p>第11回：短期指導計画の編成と事例 ③短期指導計画の編成と事例、短期指導計画案の作成</p>	
<p>第12回：短期指導計画の編成と事例 ④短期指導計画案の作成</p>	
<p>第13回：幼児教育(保育)におけるカリキュラム評価とその方法</p>	
<p>第14回：教育課程(保育課程)編成における協力と連携</p>	
<p>第15回：今後の幼児教育(保育)とカリキュラム編成</p>	
テキスト：『新版 幼児教育課程論入門』石垣恵美子他編 建帛社(2011)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省著 フレーベル館(2008)	
『教育課程・保育計画総論』田中亨胤、佐藤哲也編著 ミネルヴァ書房(2007)	
『幼保園型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省著 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：筆記試験（50%）、授業の振り返り（30%）、課題の提出（20%）	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りは、提出するコメントの記述内容を評価 ・課題の提出は、提出状況や分量、中身から評価 	

担当者	堀 建治
科目名	保育内容総論
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容に対する総合的な理解を深める <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領における保育内容の「領域」別の「ねらい」や「内容」について理解する ・遊びの意義、環境との主体的なかかわり、生活経験と保育内容との関係について理解する ・保育教材に対する理解と基礎的な保育技術を習得する 	
<p>授業の概要</p> <p>本授業では保育活動の基盤となる「幼稚園教育要領」を中心に幼稚園における保育内容の基礎と内容を学ぶ。また保育内容の中核となる「領域」について概念を理解するとともに、保育そのものを総合的にとらえる視点、あるいは子ども理解の一助となるための必要な知識・技術を習得する。なお、毎時間、手遊び等の保育教材を取り上げ、自身の保育技術向上も図る。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(授業の進め方)</p> <p>第2回：保育者と保育観</p> <p>第3回：保育と遊び</p> <p>第4回：保育における環境構成</p> <p>第5回：保育内容を支える教材の研究①(手遊び)</p> <p>第6回：保育内容における「領域」の定義</p> <p>第7回：保育内容における「領域」の方向性</p> <p>第8回：保育内容と「領域」における「ねらい」</p> <p>第9回：保育内容と「領域」における「内容」</p> <p>第10回：幼稚園教育要領と保育内容について</p> <p>第11回：保育所保育指針と保育内容について</p> <p>第12回：保育内容を支える教材の研究②(絵本・紙芝居)</p> <p>第13回：保育指導計画の意義</p> <p>第14回：保育教材の展開①(絵本を用いての模擬保育)</p> <p>第15回：保育教材の展開②(手遊びを用いての模擬保育)</p>	
<p>テキスト：『保育内容・保育方法総論の理論と活用』上野恭裕編著 保育出版社(2010)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)</p> <p>『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)</p>	
<p>学生に対する評価：進度確認試験(70%)、課題(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進度確認試験は、専門職として必要な知識の理解度について評価 ・課題は、授業者の指示するレベルに到達するかどうかを勘案して評価 	

担当者	堀 建治
科目名	健康指導法
開講時期	2年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期のこころとからだの健康 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」のあり方から、乳幼児、あるいは人間にかかわる「健康」について理解する ・楽しく体を動かすことができる環境づくりや指導の工夫、指導のあり方を理解する ・基本的生活習慣の獲得や確立、安全にかかわる意識の育成を図る大切さを理解する 	
授業の概要	
<p>乳幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する。こうした発達の姿を理解し、保育のうえでどのように取り組むかを、実践事例を取り上げ学ぶ。さらに、運動機能が発達することにより、幼児の活動性は高まり生活の仕方も獲得されていく。幼児が自己充実を深め生活リズムを獲得していくためには、保育者のどのような関わりの仕方が必要か、現在の幼児の課題は何かを討議する等により、幼児の育ちを支える保育者の役割について学ぶ。</p>	
授業計画	
<p>第1回：オリエンテーション(授業の進め方)</p> <p>第2回：子どもにとっての「健康」とは①(身体的健康・精神的健康)</p> <p>第3回：子どもにとっての「健康」とは②(社会的健康)</p> <p>第4回：子どもの運動機能の発達①(身体の成長・発達)</p> <p>第5回：子どもの運動機能の発達②(運動能力・運動機能の発達)</p> <p>第6回：領域「健康」の「ねらい」</p> <p>第7回：領域「健康」の「内容」</p> <p>第8回：子どもの健康と基本的生活習慣</p> <p>第9回：子どもの健康管理と安全</p> <p>第10回：子どもの「いのち」を考える</p> <p>第11回：領域「健康」における教材研究(運動遊びを中心として)</p> <p>第12回：領域「健康」と指導計画の作成①(指導計画上の留意点)</p> <p>第13回：領域「健康」と指導計画の作成②(指導計画案の作成)</p> <p>第14回：模擬保育①(集団ゲームにかかわる教材を中心として)</p> <p>第15回：模擬保育②(遊具を用いての教材を中心として)</p>	
テキスト：『実践保育内容シリーズ①健康』 谷田貝公昭監修 一藝社(2014)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008) 『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館(2008) 『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、文部科学省、厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：進度確認試験(80%)、課題(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・進度確認試験は、専門職として必要な知識の理解度について評価 ・課題は、授業者の指示するレベルに到達するかどうかを勘案して評価 	

担当者	山野 栄子
科目名	人間関係指導法
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児が人間関係を築いていく発達の課程を理解する ・人と関わる力を育む保育・教育方法について考察し、実際指導計画を立案、実践する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわる力がどのように育まれていくか基本的な発達の道筋を理解する ・教師として、どのように人とかかわる力を育んでいくか教育・保育方法を習得する 	
<p>授業の概要</p> <p>人と関わる力の基礎を育む乳幼児期に、人間として生きていく上で大切な人との関わりをどのような方法で身につけ、愛着関係・信頼関係を築いていくのか乳幼児の発達過程に即して理解し学ぶ。また、そのような力をどのように育んでいくのか保育・教育の場面の事例を参考に一緒に考えてみる。そして、実際に学生自身が様々な人と関わる体験を積みながら、受容する・共感する・理解する・絆を深めるなどの力を養えるようにする。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：領域「人間関係」について、授業の進め方</p> <p>第2回：子どもを取り巻く環境と人間関係</p> <p>第3回：幼稚園教育要領・保育者保育指針・認定こども園教育保育要領と「人間関係」</p> <p>第4回：人と関わる力の発達の基礎「愛着」「信頼関係」</p> <p>第5回：0歳児、1歳児の発達と人間関係</p> <p>第6回：2歳児の発達と人間関係</p> <p>第7回：3歳児、4歳児の発達と人間関係</p> <p>第8回：5歳児、6歳児の発達と人間関係</p> <p>第9回：特別な支援を必要とする子どもとインクルーシブ教育、保育</p> <p>第10回：子どもと保育者・子ども同士・保護者とのかかわり</p> <p>第11回：遊びの中で育つ人間関係の事例検討（1）0歳児、1歳児の遊びの中で人とかかわる</p> <p>第12回：遊びの中で育つ人間関係の事例検討（2）2歳児の遊びの中で人とかかわる</p> <p>第13回：遊びの中で育つ人間関係の事例検討（3）3歳児、4歳児の遊びの中で人とかかわる</p> <p>第14回：遊びの中で育つ人間関係の事例検討（4）5歳児、6歳児の遊びの中で人とかかわる</p> <p>第15回：振り返りと再確認</p>	
<p>テキスト：『保育実践を支える人間関係』成田朋子著 福村出版(2009)</p> <p>参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008) 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)</p>	
<p>学生に対する評価：試験(60%)、レポート(30%)、授業態度(10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 ・授業態度は、授業(グループワーク)への参加度をもとに評価 	

担当者	横井 一之
科目名	環境指導法
開講時期	2年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が身近な環境に好奇心や探究心をもってかかりわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うためには、どのように幼児に関わればよいかを理解する 	
授業の概要	
<p>幼児教育における領域「環境」を中心に、その意義、ねらい、内容、指導計画の考え方を解説するとともに、具体的な保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。</p> <p>また、保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は、保育者養成という立場から、領域「環境」を理論的、実践的に理解することを目指す。</p>	
授業計画	
<p>第1回：保育における環境の役割、領域「環境」のねらいと内容</p> <p>第2回：領域「環境」の指導計画とその展開</p> <p>第3回：乳幼児の自然認識の発達と「環境」</p> <p>第4回：保育の実際—0,1,2歳児の保育活動—</p> <p>第5回：3歳児の保育活動</p> <p>第6回：4歳児の保育活動</p> <p>第7回：5歳児の保育活動</p> <p>第8回：野菜を栽培する—ナス、ピーマン</p> <p>第9回：昆虫と遊ぶ—チョウ、カブトムシ、セミ</p> <p>第10回：動物と遊ぶ—チャボ、ウサギ、キンギョ</p> <p>第11回：保育のための技術・資料—植物と遊ぶ—</p> <p>第12回：草花と遊ぶ</p> <p>第13回：食べる・生きるを中心とした保育実践のために</p> <p>第14回：地域環境の活用・田んぼ、お宮の探検</p> <p>第15回：学生各自の振り返りと反省</p>	
テキスト：『保育実践を支える 環境』吉田淳・横井一之著 福村出版(2010)	
『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林(2015)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、文部科学省、厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：受講態度(30%)、小テスト(30%)、レポート(40%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・受講態度は、授業への参加度をもとに評価 ・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 	

担当者	川勝 泰介
科目名	言葉指導法
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達過程や保育者の援助について学び、視聴したDVDについてグループで討論し、発表する ・絵本、紙芝居などの幼児文化財の活用について理解を深め、パネルシアターの演習の成果を発表会で演じる 	
授業の概要	
<p>人は生まれて、母親や周りの人と様々な方法でコミュニケーションをとりながら、相互作用で心の交流を図り、成長していく。そのなかで伝達手段として言葉の果たす役割は非常に大きい。言葉の発達過程を理解し、子どもが経験したこと、思っていること、考えていることを自らの言葉で表現できる力を育てるために、保育者としてのあり方、環境構成、援助方法などを学ぶ。また、学生自身が積極的に教材研究し、発表することができる実践演習も行う。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション 授業内容を学ぶ	
第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」	
第3回：発声発音からの言葉の文法やルールを理解する	
第4回：言葉の特徴と発達について学ぶ	
第5回：言葉が育つ環境としての保育所の援助について学ぶ	
第6回：言葉をめぐるワークショップI(絵本の読み聞かせ)	
第7回：保育内容と何かを学ぶ(1)ことばの機能・特徴について	
第8回：保育内容と何かを学ぶ(2)言葉の育ち・習得の道筋について	
第9回：保育内容と何かを学ぶ(3)言葉を豊かにする文化について	
第10回：言葉をめぐるワークショップII(紙芝居の読み聞かせ)	
第11回：言葉をめぐるワークショップIII(エプロンシアター)	
第12回：言葉をめぐるワークショップIV(エプロンシアター)	
第13回：言葉をめぐるワークショップV(パネルシアター)	
第14回：言葉をめぐるワークショップVI(パネルシアター)	
第15回：パネルシアターの発表会	
テキスト：『保育実践を支える言葉』成田朋子編著 福村出版(2013)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、文部科学省、厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
『保育内容「言葉」』柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美著 ミネルヴァ書房(2010)	
学生に対する評価：試験(50%)、授業の振り返り(30%)、レポート(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りは、提出するコメントの記述内容を評価 ・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 	

担当者	松本 亜香里
科目名	表現指導法
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<ul style="list-style-type: none"> 表現するの楽しさを自身の体験をとおして知る 表現活動を多様な方法で展開するための知識や技術を修得する 子どもの発達を理解し、表現活動の援助やあり方を考え、学修する 	
授業の概要	
<p>子どもが感性を育み、自分が感じたことを自由に表現できるには、保育者は子どもの成長や発達過程を理解し、適切な環境や援助ができないなければならない。また、保育者自身がいろいろな表現を経験し、「楽しむ」ことが重要である。本授業では、それらを踏まえ、子どもの成長を促すために必要な表現活動の援助や指導のあり方を受講者自らが考え、創造し、学修する。</p>	
授業計画	
<p>第1回：オリエンテーション、「表現」のねらい</p> <p>第2回：「表現」の内容および内容の取扱い</p> <p>第3回：身体表現 ①手あそび歌の動作や歌い方</p> <p>第4回：身体表現 ②対象の観察、分析、疑似</p> <p>第5回：音楽表現 ①音であそぶ</p> <p>第6回：音楽表現 ②音楽を通じた表現</p> <p>第7回：造形表現 ①身近な素材を用いた遊具制作</p> <p>第8回：造形表現 ②身近な素材を用いた生活用具制作</p> <p>第9回：指導計画書の作成 ①表現活動にかかわる子どもの発達</p> <p>第10回：指導計画書の作成 ②表現活動にかかわる指導の展開</p> <p>第11回：指導計画書の作成 ③表現活動にかかわる指導計画書作成</p> <p>第12回：表現指導法 ①身体表現 活動の流れや援助指導法</p> <p>第13回：表現指導法 ②音楽表現 活動の流れや援助指導法</p> <p>第14回：表現指導法 ③造形表現 活動の流れや援助指導法</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<p>テキスト：『新 子どもの健康』平井タカネ・村岡眞澄・河本洋子編著 三晃書房(2010)</p> <p>『事例で学ぶ保育内容 〈領域〉表現』無藤隆他著 萌文書林(2008)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説書』文部科学省編 フレーベル館(2008)</p> <p>『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、文部科学省、厚生労働省編 フレーベル館(2015)</p>	
<p>学生に対する評価：受講態度(60%)、課題、授業記録等の提出物(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講態度は、実技実践への参加度から評価 課題や授業記録等は、提出状況や分量、中身から評価 	

担当者	山野 栄子
科目名	乳児保育
開講時期	2年 通年 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・人間の人格形成の基礎を培う大切な乳児期の保育について理解し、知識と技能を身につける	
[到達目標]	
・乳児保育の重要性と現代社会における乳児保育の役割と機能について理解する	
・乳児期の心身の発達について理解する	
・各々の発達に応じた保育内容を学ぶ	
・保育内容と記録のとり方を学ぶ	
授業の概要	
乳児期は人間の人格形成を培う大切な時期である。その時期に携わる保育者としての役割を自覚し、乳児の発達・成長について理解する。そして、子どもの生活や遊びの内容・援助の仕方を習得する。また、一人一人の子どもの育ちを大切にし、個別の指導計画や記録のとり方、保育の環境や保育者間の連携、保護者・子育て支援のあり方など事例を交えて具体的に学び、保育者としての実践的能力と資質を培うようとする。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：乳児保育の意義	
第3回：乳児保育の制度と役割	
第4回：乳児保育の1日 ①保育所	
第5回：乳児保育の1日 ②乳児院・家庭的保育	
第6回：運動機能の発達	
第7回：手指機能の発達	
第8回：対人関係の発達 ①言葉の発達と保育	
第9回：対人関係の発達 ②人とのかかわりの発達と保育	
第10回：乳児の発達のまとめ	
第11回：乳児の生活 ①授乳と離乳食	
第12回：乳児の生活 ②食事とアレルギー	
第13回：乳児の生活 ③排泄	
第14回：乳児の生活 ④睡眠	
第15回：手作り玩具制作	
第16回：手作り玩具発表	
第17回：6か月未満の保育(家庭との連携・保育者の連携)	
第18回：6か月～1歳3か月未満の保育と保育者のかかわり	
第19回：1歳児保育と保育者のかかわり	
第20回：2歳児保育と保育者のかかわり	
第21回：乳児の遊び	
第22回：乳児の遊びについて、学びの発表	
第23回：乳児の生活と遊びのまとめ	

第24回：乳児保育の健康管理

第25回：乳児保育の環境と安全管理

第26回：保育の記録 家庭との連絡・保育日誌

第27回：保育課程と指導計画

第28回：計画の評価と反省

第29回：乳児の養育環境とこれからの課題(少子化と子育て支援・虐待問題など)

第30回：乳児保育の記録と養育問題のまとめ

テキスト：『新・乳児の生活と保育』松本園子編著 ななみ書房(2009)

参考書・参考資料等：『乳児保育の実践と子育て支援』榎原洋一・今井和子編著 ミネルヴァ書房(2006)

学生に対する評価：受講態度(40%)、課題・提出物・小テスト(60%)

- ・受講態度は、授業への参加姿勢や、発表内容などをもとに評価
- ・課題・提出物は、分量や内容、小テストは授業内容の理解度から評価

担当者	丸山 あけみ
科目名	障がい児保育 I
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・障害のある子どもたちの特性を理解し、援助について学び、共に育ちあう保育について理解する	
〔到達目標〕	
・障害のある子どもたちの障害特性に関する知識を身につける	
・障害のある子どもたちと共に育ちあう保育について様々な方法を身につける	
授業の概要	
「障害とは何か?」などの基本的な知識を得ることから始め、障害児保育についての基本姿勢や心構え及び対応等について保育との関連性を図りながら学び取るとともに「障害児保育観」の確立を目指して授業を進める。いくつかの障害児保育の事例に触れ、共に考え、より実践的に学ぶようとする。	
授業計画	
第1回：授業概要と授業のすすめ方	
第2回：障害の概念と障害児保育の歴史的変遷	
第3回：障害児保育の基本と発達の援助	
第4回：肢体不自由、視覚・聴覚障害等の理解と援助	
第5回：知的障害児の理解と援助	
第6回：発達障害児の理解と援助① 注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)について	
第7回：発達障害児の理解と援助② 自閉症スペクトラム障害について	
第8回：特別な支援を必要とする子どもの理解と援助	
第9回：個々の発達を促す生活や遊びの環境	
第10回：子ども同士のかかわりと育ちあい	
第11回：個別の支援計画の作成と記録・評価	
第12回：職員間の協働と保育の専門性	
第13回：親の障害受容と支援のあり方	
第14回：小学校や地域、専門機関との連携	
第15回：福祉・教育における現状と課題・まとめ	
テキスト：『障害児保育』藤永保監修 萌文書林(2015)	
参考書・参考資料等：『発達が気になる子へのかかわり方&基礎知識』グループこんへいと編著 黎明書房(2008) 『気になる子の保育 Q&A』田中康雄著 Gakken(2008)	
学生に対する評価：確認テスト・課題提出(60%)、発表・授業態度(40%)	
・確認テストや課題は内容の理解度を図り、評価	
・発表・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	安田 誠人
科目名	障がい児保育II
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育の新しい理念、考え方や障害児・保護者の支援方法を理解する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育、合理的配慮など新しい障害児保育の理念を身につけることができる ・障害の早期発見、保護者支援、就学支援など障害児保育を実践する能力を身につけることができる 	
授業の概要	
<p>障害児保育の歴史的変遷や社会的背景を学び、障害児保育の現状について正しい理解をする。特にインクルージョン教育の概念や合理的配慮を理解し、今後求められる障害児保育に関する実践的能力を熟成する。</p> <p>さらに「障がい児保育I」で学んだ知識を基本として、障害児の発達特性、家庭支援、関係機関との連携、就学、保護者支援などに関する学び、障害児や保護者との信頼関係を築き、保育園内外において障害児保育を実践する能力を身に付ける。</p>	
授業計画	
<p>第1回：オリエンテーション～なぜ障害児保育を学ぶのか～</p> <p>第2回：障害の法的定義～障害者手帳との関連から～</p> <p>第3回：障害概念の歴史的変遷～ICFによる障害概念を理解する～</p> <p>第4回：障害児保育の形態～保育所での障害児保育と療育センターなどでの障害児保育～</p> <p>第5回：インクルーシブ保育の理念～インクルーシブ保育の理念・考え方の理解～</p> <p>第6回：インクルーシブ保育の実践に向けて</p> <p>第7回：合理的配慮の理解～障害者差別解消法と合理的配慮～</p> <p>第8回：保育所・療育センター等での合理的配慮～合理的配慮の実践に向けて～</p> <p>第9回：障害児の発達特性の理解～発達検査・心理検査から障害特性を理解する～</p> <p>第10回：障害の早期発見と支援</p> <p>第11回：保護者支援①～保護者との連携～</p> <p>第12回：保護者支援②～保護者の障害受容～</p> <p>第13回：関係機関との連携～保健・医療機関との連携～</p> <p>第14回：障害児の就学に向けての支援～すべての子どもに「入学おめでとう」を～</p> <p>第15回：障害児保育の現状と課題～まとめ～</p>	
テキスト：『障がい児保育の基本と課題』井村圭壯、今井慶宗著 学文社(2016)	
参考書・参考資料等：『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智治、橋本好市、直島正樹著 ミネルヴァ書房(2014)	
学生に対する評価：筆記試験(50%)、授業態度・課題レポート(50%)	

担当者	安藤 和彦
科目名	社会的養護内容
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・社会的養護内容について学ぶ	
[到達目標]	
・社会的養護内容における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ	
・施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ	
・個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ	
・社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する	
・社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める	
授業の概要	
<p>子どもは本来家庭で育つことが、求められている。しかし、様々な事情により家庭で育つことが、困難な子どもも存在する。そのような事情を抱えた子どもにたいして社会は、家庭に代わって責任を持って育てていこうと考えている。それが社会的養護である。その社会的養護における児童の権利擁護と保育等の倫理及び責務、実施体系、支援計画と内容及び事例分析そして専門的技術、今後の課題並びに展望について解説する。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：児童の権利擁護	
第3回：保育士の倫理及び責務	
第4回：施設養護の特性及び実際	
第5回：里親制度の特性及び実際	
第6回：個別支援計画の作成	
第7回：日常生活支援に関する事例分析	
第8回：治療的支援に関する事例分析	
第9回：自立支援に関する事例分析	
第10回：記録及び自己評価	
第11回：保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用	
第12回：ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用	
第13回：施設の小規模化と地域とのかかわり	
第14回：社会的養護の課題と展望	
第15回：実習で学んだこととの関連	
テキスト：『児童の福祉を支える 演習 社会的養護内容』吉田眞理編著 萌文書林(2016)	
参考書・参考資料等：隨時紹介する	
学生に対する評価：筆記試験(90%) 受講態度(10%)	
・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価	

担当者	吉弘 淳一、丸山 あけみ
科目名	教育・保育相談
開講時期	2年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・教育相談のポイントと具体的に実践に活かす	
〔到達目標〕	
・生徒ひとり一人の理解を深めて、その子どもに合った対応ができる	
授業の概要	
昨今、保育の場において、カウンセリングマインドをもって子どもや保護者に接することは必須となってきている。そんな中で保育カウンセラーの配置が求められてきているが、まだまだ設置されている所は数少ない。そこで本科目では、保育カウンセリングの基本的知識を学び、保護者に対する支援がなぜ必要なのかを考え、保育士の専門性を生かした保育士にできる支援について考え、具体的な事例について学んでいく。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション 今後の予定と進め方 評価について	
第2回：教育相談・保育相談の概要	
第3回：カウンセリングの理解（受容・共感・自己一致）	
第4回：教育相談・保育相談とカウンセリングの相違について	
第5回：子育て支援が求められる理由	
第6回：教育相談・保育相談の対象	
第7回：教育相談・保育相談の体制づくり	
第8回：相談の進め方について	
第9回：面接の技術と留意点	
第10回：子どもを取り巻く環境の変化	
第11回：子どもにかかわる制度・サービス等の現状について	
第12回：電話相談について	
第13回：心理療法、心理アセスメント ①面接法	
第14回：心理療法、心理アセスメント ②観察法	
第15回：心理療法、心理アセスメント ③その他	
第16回：保育現場における実践教育相談・保育相談 ①保護者の悩みの聴き方	
第17回：保育現場における実践教育相談・保育相談 ②反抗期をむかえた子どもとのかかわり	
第18回：保育現場における実践教育相談・保育相談 ③LDの疑いのある子どもへの対応	
第19回：保育現場における実践教育相談・保育相談 ④ADHDの疑いのある子どもへの対応	
第20回：保育現場における実践教育相談・保育相談 ⑤アスペルガーの疑いのある子どもへの対応	
第21回：保育現場における実践教育相談・保育相談 ⑥高機能自閉障害の疑いのある子どもへの対応	
第22回：コンプレックスについて	
第23回：ストレスについて	
第24回：事例考察 ①子どもの「動作」「行動」についての相談対応	
第25回：事例考察 ②子どもの「しつけ」「くせ」についての相談対応	
第26回：事例考察 ③子どもの「言葉」「食事」についての相談対応	
第27回：事例考察 ④子どもの「療育」についての相談対応	

第28回：コンサルテーションについて

第29回：スーパービジョンについて

第30回：まとめ

テキスト：『保育ソーシャルカウンセリング』横井一之、吉弘淳一、安田誠人他著 建帛社(2004)

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：受講態度(60%)、筆記試(40%)

- ・受講態度は、授業への参加度をもとに評価
- ・筆記試験は、出題した問題に対して記述内容を評価

担当者	桂山 たかみ
科目名	保育表現技術 I (音楽)
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として音楽の基礎的知識を習得する ・合奏を通して協調性、自己表現力を身につける 	
〔到達目標〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・数ある打楽器の基本的奏法を習得する ・旋律に複数の打楽器パートを付け加える、器楽合奏曲の楽譜作成技術を習得する 	
授業の概要	
<p>当演習においては、打楽器を通じて講義と実技の両面から授業を行う。具体的に楽典では、楽譜の中に示された様々な記号(コードネームの種類、音程、表現記号など)を理解し、演奏する際に使えるような実践力につける。</p> <p>ソルフェージュでは、楽譜(高音部記号・低音部記号)に書かれた音を読み、正解な音程で歌えること。また、幼児期に親しむ曲に打楽器を加える工夫、そしてそれを楽譜にするなど、簡単な編曲を行う。</p>	
授業計画	
第1回：ガイダンス・ソルフェージュ①・楽典①	
第2回：ソルフェージュ②・楽典②・器楽合奏(課題曲1)	
第3回：ソルフェージュ③・楽典③・課題曲1の仕上げ	
第4回：ソルフェージュ④・楽典④・器楽合奏(課題曲2)	
第5回：ソルフェージュ⑤・楽典⑤・課題曲2の仕上げ	
第6回：ソルフェージュ⑥・楽典⑥・器楽合奏(課題曲3)	
第7回：ソルフェージュ⑦・楽典⑦・課題曲3の仕上げ	
第8回：ソルフェージュ⑧・楽典⑧・旋律1への打楽器パート作り I	
第9回：ソルフェージュ⑨・楽典⑨・リトミック	
第10回：ソルフェージュ⑩・楽典⑩・Iの優秀作品演奏	
第11回：ソルフェージュ復習・楽典復習・旋律2への打楽器パート作り II	
第12回：ソルフェージュ復習・楽典復習・リトミック	
第13回：ソルフェージュ復習・楽典復習・Iの優秀作品演奏	
第14回：ソルフェージュ復習・まとめ合奏曲練習	
第15回：まとめ	
テキスト：『園で使える 手軽に器楽合奏！』芦川登美子他編著 自由現代社(2009)	
参考書・参考資料等：随時提示する	
学生に対する評価：課題(50%)、意欲・態度(50%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・人前での表現(演奏力)を身につけること ・課題は、授業時に提出された内容をもとに評価 ・授業態度は、授業への参加度や意欲をもとに評価 	

担当者	安藤 恒子
科目名	保育表現技術II(造形)
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが豊かに表現できるために、将来の保育者として、その発達に合った造形表現を体験、考察する <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材や用具に親しみ工夫をする力を身に付ける ・かいたり、作ったりすることに親しみ表現する技術を身に付ける 	
<p>授業の概要</p> <p>将来の幼児教育に携わる者としての造形的な感性を磨き、乳幼児の発達過程を踏まえた造形表現のあり方を実技を通して体系的に習得する。将来、幼稚園や保育園等ですぐに実践できるように、発達能力に合った様々な材料を使って子どもたちと共に作る内容や、環境構成を工夫したり、子どもたちが楽しむことができる手作りのおもちゃ等を作ったりして豊かな実技を行う。また、共同で作り出すことや発表の場を設け、作りあげた喜びを分かち合う。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもの発達と造形表現、オリエンテーション</p> <p>第2回：ペーパーサート作り(お話づくりと役割分担)</p> <p>第3回：ペーパーサート作り(製作)</p> <p>第4回：ペーパーサートによる劇ごっこ(発表)</p> <p>第5回：見たてあそび(紙ねん土などの材料遊び)</p> <p>第6回：見たてあそび(製作)</p> <p>第7回：見たてあそび(発表、展示)</p> <p>第8回：カラービニール袋を使った衣装作り(計画と出きあがり図)</p> <p>第9回：カラービニール袋を使った衣装作り(切ったり貼ったりして大まかに作成)</p> <p>第10回：カラービニール袋を使った衣装作り(飾り付け)</p> <p>第11回：カラービニール袋を使った衣装作り(ファッションショー)</p> <p>第12回：立体4コマ絵ばなし作り(おはなし作り)</p> <p>第13回：立体4コマ絵ばなし作り(製作)</p> <p>第14回：立体4コマ絵ばなし作り(発表)</p> <p>第15回：保育表現技術IIで学んだことのまとめ(レポート)</p>	
<p>テキスト：『保育所保育指針備蓄書(厚生労働省版)』厚生労働省編 フレーベル館(2008)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』辻泰秀編著 萌文書林(2014)</p>	
<p>学生に対する評価：毎週の表現力(40%)、鑑賞力(20%)、授業態度(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	渡邊 明宏
科目名	保育表現技術III(身体)
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・身体表現に関する理解と教材や環境構成、指導方法の修得	
〔到達目標〕	
・身体活動やそれによる表現の楽しさを体感する	
・保育場面を想定した教材の工夫や活用、環境構成、指導方法を修得する	
授業の概要	
<p>身体活動による表現について理解を深め、子どもが動くことによって自らのイメージを表現するための配慮や援助の方法を習得する。基本的な動作や運動スキルを体得し、身近な素材や遊具を活用した身体の動きを体験する。また、音楽やリズムに合わせた体操を創作し、子どもの感性や創造性を育むための実践について学ぶ。</p>	
授業計画	
第1回：ガイダンス	
第2回：乳幼児期の発達と身体表現	
第3回：動作と身体表現：姿勢変化・平衡動作	
第4回：動作と身体表現：移動動作	
第5回：動作と身体表現：道具操作	
第6回：伝承的な遊び：わらべうた遊び	
第7回：伝承的な遊び：鬼ごっこ展開と留意	
第8回：伝承的な遊び：鬼ごっこ創作	
第9回：伝承的な遊び：鬼ごっこ実践	
第10回：ペアを組んで：簡単な組み体操	
第11回：ペアを組んで：乳児期の運動遊び	
第12回：リズム・歌を伴う身体表現	
第13回：身体表現遊びの立案	
第14回：身体表現遊びの発表	
第15回：振り返りとまとめ	
テキスト：『幼児の楽しい運動遊びと身体表現』樋丸武臣、花井忠征編　圭文社(2010)	
参考書・参考資料等：『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会編　杏林書院(2014)	
学生に対する評価：受講姿勢(50%)、提出物(50%)	
・受講姿勢は、毎回提出するコメントの記述内容を評価	
・提出物は、提示した課題に対する成果を評価	

担当者	川勝 泰介
科目名	保育表現指技術IV(言葉)
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語表現の発表を行い、保育者としての技術を身につける <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアター、紙芝居等の作品を作成することができる ・言語文化財を用いて表現方法を工夫して発表することができる 	
<p>授業の概要</p> <p>自分の感情や思考の伝達手段として言葉を使用できるのは人間のみである。社会の中で人と人が相互理解を深めていくために、人間の特徴である言葉をどのように使って、豊かなコミュニケーション力を育んでいければよいのか、学生と共に考えたい。そして実際、保育の場で子どもたちと取り組む言葉遊びや絵本・紙芝居の読み聞かせ、劇ごっこなどの活動を学生が経験し、豊かな言語表現ができるようにする。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス(授業計画説明)</p> <p>第2回：パネルシアターとは何かを学ぶ (DVD視聴)</p> <p>第3回：パネルシアターの作成①(構想)</p> <p>第4回：パネルシアターの作成②(発達段階に応じたお話の教材研究)</p> <p>第5回：パネルシアターの作成③(実際の制作と試作)</p> <p>第6回：パネルシアターの作成④(完成、リハーサル)</p> <p>第7回：パネルシアターの発表</p> <p>第8回：創作童話から紙芝居を作成(説明と計画)</p> <p>第9回：紙芝居の作成①(脚本作り)</p> <p>第10回：紙芝居の作成②(場面づくり)</p> <p>第11回：紙芝居の作成③(年齢発達に合った実際の構成)</p> <p>第12回：紙芝居の作成④(発達場面にふさわしい造形表現)</p> <p>第13回：紙芝居の作成⑤(演出)</p> <p>第14回：紙芝居の作成⑥(演出と通じけいこ)</p> <p>第15回：発表と評価</p>	
<p>テキスト：『パネルシアターであそぼ』 関雅子著 大東出版(1996)</p> <p>参考書・参考資料等：『こうざパネルシアター——初步から応用まで』 古宇田亮順、阿部恵著 大東出版(1983)</p>	
<p>学生に対する評価：毎回のレポート(30%)、作品(50%)、受講態度(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、分量・内容により評価 ・受講態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	川勝 泰介
科目名	児童文化
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・様々な表現活動と児童文化を結びつける知識や技術を学ぶ	
[到達目標]	
・絵本、折り紙、ペーパーサート等の児童文化に親しみ、作成の技術を獲得する	
授業の概要	
<p>乳幼児期からメディアに触れて育つ現代、そのことが乳幼児の脳の発達や情緒・社会性の発達に影響を与える可能性があるといわれている。そこで乳幼児期の発達にふさわしい手遊びや伝承遊び、絵本や紙芝居、人形劇など児童文化について学び、自らが製作したり演じたりして、知識や技術を習得する。</p> <p>また、それぞれの季節に伝わる日本の伝統行事についても学び、次世代にどのように伝えていくのかも考える。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション、児童文化の概念と保育	
第2回：子どもの発達と絵本の特性、絵本の選び方	
第3回：折り紙等の伝承玩具の制作①(お話づくり)	
第4回：折り紙等の伝承玩具の制作②(春・夏の生活に関する折り紙制作)	
第5回：折り紙等の伝承玩具の制作③(秋・冬の生活に関する折り紙制作)	
第6回：折り紙等の伝承玩具の制作④(脚本完成)	
第7回：折り紙等の伝承玩具の発表と評価	
第8回：発達に応じたお話、紙芝居の歴史について	
第9回：ペーパーサートについて	
第10回：ペーパーサートの作成①(お話、昔話など)	
第11回：ペーパーサートの作成②(発達に応じた教材研究)	
第12回：ペーパーサートの作成③(乳幼児に応じた制作の工夫)	
第13回：ペーパーサートの作成④(リハーサル・フィードバック)	
第14回：ペーパーサートの作成⑤(完成、演出)	
第15回：ペーパーサートの発表と評価	
テキスト：『児童文化』皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房(2007)	
参考書・参考資料等：『実習に役立つ保育技術』百瀬ユカリ 創成社(2009)	
学生に対する評価：制作物(40%)、レポート(30%)、発表(30%)	
・レポートは、分量・内容により評価	

担当者	堀 建治、松本 亜香里、田村 祐章、伊藤 喬治、丸山 あけみ
科目名	保育実習Ⅰ
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・保育士として必要な知識・技術・マインドを実習を通して学ぶ	
[到達目標]	
・これまでに講義、演習などをとおして基礎的な知識、技術について学んできたことを、保育所や児童福祉施設の実践に携わることによって、保育に必要な事項を実体験をとおして考え、知識や技術の取得向上に結びつくようにする	
授業の概要	
【保育実習Ⅰ(保育所)】	
大学において学習した理論や技術をもとに、保育所において乳幼児や職員と直接触れ合う体験を通して、保育の基本的な有り様の理解を目標とする。保育実習Ⅰでは、主に「乳幼児の理解と関わり」「保育所の特性」「保育の計画と準備」について、観察実習、参加実習、部分実習において学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。	
【保育実習Ⅰ(施設)】	
保育所以外の児童福祉施設等における養護や自立支援の実際について現場での実習を通して体験的に学ぶ。施設の目的・機能を理解し、適切な援助方法を学ぶ。様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。子どもの言葉や行動を観察し、観察内容を適切に考察し、実習記録の書き方を学ぶ。以上の事柄をとおして、施設保育士の倫理・職務等について理解し、必要な資質・能力・技術を習得し、必要とされる能力を養うことを目的とする。	
授業計画	
実習時期(予定)	
《保育所》	
平成30年3月 保育所実習 10日間	
《施設》	
平成30年8月 保育所以外の児童福祉施設等 10日間	
テキスト：『福祉施設実習ガイドブック』三重県施設実習研究協議会(2016)	
参考書・参考資料等：	
学生に対する評価：児童福祉施設や保育所実習での評価(50%)、実習記録の状況(50%)を総合的に考慮して評価	

担当者	堀 建治、松本 亜香里、田村 穎章、伊藤 喬治、丸山あけみ
科目名	保育実習指導 I
開講時期	1年 後期 2年 前期 選択
開講区分	専門教育課目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習」を通じて、「保育士」として必要となる専門性を学ぶ <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要となる心構え等を学ぶ ・実習に必要となる記録の書き方等を学ぶ ・保育士として必要な職業倫理等を学ぶ 	
授業の概要	
<p>保育所での保育実習の事前・事後指導を行う。実習前には、実習に向けた自己課題を明確にし、保育所の特性や保育士の仕事、保育所実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方や教材研究の実際を授業の中で学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p> <p>本演習では、施設実習の事前・事後指導を行う。実習前には、実習に向けた自己の課題を明確にし、施設の特性や保育士の仕事、施設実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方の実際を学ぶ。実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務についても学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、施設の特性や保育士の仕事、子どもや児童についての理解を深める。</p>	
授業計画	
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：保育実習の意義1（保育士資格取得に向けて）</p> <p>第3回：保育実習の意義2（なぜ保育実習が必要か）</p> <p>第4回：保育実習の内容1（観察実習）</p> <p>第5回：保育実習の内容2（参加実習）</p> <p>第6回：保育実習の内容3（責任実習）</p> <p>第7回：施設実習の意義1（なぜ施設実習が必要か）</p> <p>第8回：施設実習の意義2（実習の重要性）</p> <p>第9回：保育実習先の選定について</p> <p>第10回：保育実習先の依頼について</p> <p>第11回：施設実習先の理解1（乳児院）</p> <p>第12回：施設実習先の理解2（児童養護施設）</p> <p>第13回：施設実習先の理解3（知的障害児施設）</p> <p>第14回：施設実習先の選定について</p> <p>第15回：前期まとめ</p> <p>第16回：保育実習生としての心がまえ1（挨拶等）</p> <p>第17回：保育実習生としての心がまえ2（服装等）</p> <p>第18回：保育実習に向けての書類作成</p> <p>第19回：施設実習における書類作成</p>	

第20回：保育実習の記録の書き方1（環境構成）

第21回：保育実習の記録の書き方2（子どもの活動）

第22回：保育実習の記録の書き方3（保育士の留意点）

第23回：施設実習の内容1（観察・参加実習）

第24回：施設実習の内容2（責任実習）

第25回：施設実習における留意事項

第26回：施設実習における記録の書き方1（子どもの理解）

第27回：施設実習における記録の書き方2（保育士の動き）

第28回：保育実習における指導計画案作成について

第29回：施設実習における指導計画案作成について

第30回：後期まとめ

テキスト：『福祉施設実習ガイドブック』三重県施設実習研究協議会(2016)

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)

参考書・参考資料等：

学生に対する評価：授業態度(70%)、提出物(30%)をもとに総合的に判断する

・授業態度について、居眠り、欠席等が著しいものは実習への参加を認めない

担当者	堀 建治、川勝 泰介、伊藤 康明、松本 亜香里、伊藤 喬治、渡邊 明宏
科目名	保育・教職実践演習
開講時期	2年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<p>・幼児教育者あるいは保育者として、保育内容にかかわる理解を深めるとともに受講者の指導力向上を図る</p>	
授業の概要	
<p>2年間の学び、あるいは学外実習で得られた専門的な知識及び技術について、学内でのディスカッション、あるいは保育現場での実践を通じて、再確認するとともに、幼児教育者あるいは保育者として必要とされる使命感、社会性、責任感、子どもに対する理解などを深めることを目的とする。また、外部講師からの講話や各現場でのフィールドワーク、実践を通じて理解を深め、受講生の幼児教育者あるいは保育者としての指導力向上に資することをねらいとする。</p>	
授業計画	
第1回：イントロダクション	
第2回：グループ討議(保育内容の指導上の能力について)	
第3回：効果的な指導案の作成について（現場園長からの特別講義）	
第4回：幼児教育者として求められる資質（使命感・責任感、こども理解等）の調査①(フィールドワーク)	
第5回：幼児教育者として求められる資質（対人関係能力）の調査②(フィールドワーク)	
第6回：幼児教育者として求められる資質（こども理解）の調査③(フィールドワーク)	
第7回：フィールドワークのまとめ	
第8回：フィールドワークでの成果発表と総括(現場からのコメント)	
第9回：模擬保育における準備①（「模擬保育」での内容の検討）	
第10回：模擬保育における準備②（「模擬保育」での指導案作成・検討）	
第11回：模擬保育における準備③（教師を中心としたロールプレーゲィング）	
第12回：模擬保育における準備④（幼児を中心としたロールプレーゲィング）	
第13回：模擬保育の実施①（使命感・責任感・対人関係能力を視点として）	
第14回：模擬保育の実施②（こども理解を視点として）	
第15回：総括	
テキスト：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
『幼保園連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
参考書・参考資料等：資料については必要に応じて授業時に配布する。	
学生に対する評価：授業記録(30%)、現場における研究保育(事前事後指導含む)(30%)、レポート(40%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業記録、課題、レポートの提出物は、内容と分量・提出期限から評価 ・研究保育は事前の指導案作成や指導、事後における指導や課題提出を含めて評価 	

担当者	堀 建治、伊藤 喬治
科目名	教育と社会
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・幼稚園を中心とする学校をめぐる制度的、社会的、経営的事項について必要な事項を学ぶ	
〔到達目標〕	
・学校制度、特に幼稚園を中心とする制度や思想の変遷、意義について理解する	
・コンプライアンス、守秘義務等を含めて、学校経営に必要とされる基礎的事項について学ぶ	
・わが国における教育に関する諸問題を解決するための基礎的事項を学ぶ	
授業の概要	
本科目の目的は、教育実践していくうえで必要とされる社会的、制度的及び学校経営の基礎的知識を学生自身が主体的に理解することを目指すものである。近年のわが国の急激な変容は様々な問題を提起してきている。教育の社会的、制度的、経営的側面を切り口として、学校・家庭・社会を取り上げ、教育のあり方について理解することを目的とする。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション(授業の進め方)	
第2回：わが国の幼稚教育制度について（幼稚園）	
第3回：わが国の幼稚教育制度について（幼保一元化）	
第4回：わが国の幼稚教育制度について（認定こども園）	
第5回：世界の幼稚教育制度の歴史について（思想）	
第6回：世界の幼稚教育制度の歴史について（制度）	
第7回：学校とその経営①（学校形成の組織）	
第8回：学校とその経営②（学級担任の意義）	
第9回：学校におけるコンプライアンスについて	
第10回：学校における守秘義務について	
第11回：学校と家庭との連携について	
第12回：学校と幼稚園・認定こども園・保育所との連携について	
第13回：地域社会と教育のありかた	
第14回：学校を取り巻く諸問題	
第15回：わが国における教育改革と今後	
テキスト：『教育と社会 一子ども・学校・教師』陣内靖彦、木村敬子、穂坂明徳著 学文社(2012)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：試験(70%)、リアクションペーパー・課題(30%)	
・試験については、専門職として必要な知識の理解度について評価	
・毎回実施するアクションペーパーでは授業内容についての理解、課題については授業者の指示するレベルに到達するかどうかを勘案して評価	

担当者	田中 雅章
科目名	教育方法と技術
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習サイクル(授業の設計・実施・評価・改善)にかかわる新しい知識・技術を修得する ・プレゼンテーション技術の向上にICTを活用して効果的な(情報発信)ができる。意義や留意点を実感する ・授業改善の方法である、自己評価(振り返り)・相互評価の実施方法やその意義を理解する 	
<p>授業の概要</p> <p>この授業では確実な教授技術を修得するため、学習サイクルと相互評価法を体験する。まず、大型ケント紙に1枚紙芝居を作成する。全員が1枚紙芝居を演じ、聴講者はリフレクションシートに記入して発表者に評価を返す。発表者はリフレクションシートに基づき振り返り活動を行う。次の段階はデジタル紙芝居を作成する。評価がしやすいように事前に前説を行ったうえで、5分程度の物語を演じる。聴講者はWeb版リフレクションシステムより評価を入力する。発表者は可視化された評価結果に基づき振り返り活動を行い、学習サイクルを体験する。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、グループ作業の目的と意義の理解</p> <p>第2回：各自が1枚紙芝居の学習計画の立案、教材作成作業</p> <p>第3回：1枚紙芝居の発表活動と対象者の立場にたった聴講活動</p> <p>第4回：フィードバックシートに基づく発表の評価活動</p> <p>第5回：フィードバックシートによる相互評価活動の体験と振り返り活動とその効果の体験活動</p> <p>第6回：教育教材作成支援システムの利用方法の学習と体験</p> <p>第7回：PowerPointの使用方法の確認</p> <p>第8回：グループ作業による模擬指導テーマの決定と担当者の割り当て</p> <p>第9回：グループ内の担当者別作業のスケジューリング化と作業計画書の作成</p> <p>第10回：模擬指導テーマに基づいた指導案の作成</p> <p>第11回：Web相互評価システムの使い方と相互評価作成までの実技実践</p> <p>第12回：模擬指導の発表活動と対象者の立場にたった聴講活動</p> <p>第13回：Web相互評価に基づく発表の評価活動活動</p> <p>第14回：Web相互評価票に基づく、振り返りと改善作業</p> <p>第15回：講義で学習した内容の振り返り活動</p>	
<p>テキスト：『教育の方法と技術 第2版』教育学のポイント・シリーズ 柴田義松、山崎準二編 学文社(2014)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『30時間でマスター Office2013』実教出版編修部 実教出版(2014)</p>	
<p>学生に対する評価：受講態度(40%)、共同作業(30%)、提出物(30%)を総合的に判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講態度は、授業への参加度をもとに評価 ・共同作業は、グループから提出された提出物をもとに評価 ・提出物は、分量や内容をもとに評価 	

担当者	堀 建治
科目名	保育指導法
開講時期	2年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの豊かな活動を援助するための方法を理解する 乳幼児教育の指導・援助の在り方を具体的に学ぶ 	
授業の概要	
<p>幼稚園及び保育所において展開される保育における指導は、子どもの育ちを促すように、直接的・間接的になされるものである。そして幼稚園・保育所での保育は環境を通して行なうことが基本とされ、遊びを通して指導を中心として、保育のねらいを総合的に達成することが望まれている。本科目の目的は保育における指導の特質に関して、考察し理解を深めるとともに、個人の実践力の向上、指導案作成と模擬保育などを通して柔軟な指導の方法の在り方を具体的に考えることをねらいとする。</p>	
授業計画	
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：保育方法の基本について</p> <p>第3回：乳幼児の理解と保育方法</p> <p>第4回：環境構成と保育の展開</p> <p>第5回：遊びによる総合的指導</p> <p>第6回：子どもにふさわしい園生活の展開</p> <p>第7回：0歳児の発達の特徴と望ましい指導</p> <p>第8回：1歳児の発達の特徴と望ましい指導</p> <p>第9回：2歳児の発達の特徴と望ましい指導</p> <p>第10回：3歳児の発達の特徴と望ましい指導</p> <p>第11回：4歳児の発達の特徴と望ましい指導</p> <p>第12回：5歳児の発達の特徴と望ましい指導</p> <p>第13回：家庭・地域・小学校との連携</p> <p>第14回：様々な指導形態と工夫</p> <p>第15回：保育者の成長と専門性</p>	
テキスト：『保育方法・指導法』大豆生田啓友、渡辺英則、森上史朗編著 ミネルヴァ書房(2012)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
学生に対する評価： 試験(50%)、授業の振り返り(30%)、レポート(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 	

担当者	桂山 たかみ、松本 亜香里、岸田 恵、宮田 美佐、村木 清子
科目名	幼児の音楽I
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・保育者として、子どもが音楽の表現力を育む活動をするための知識と技術を習得する	
[到達目標]	
・保育者として、音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的知識を習得する	
・習得した音楽的知識をもとに「子どもたちのためになる指導」ができるようにする	
授業の概要	
保育者は子どもたちから自発的に現れる音楽の表現力を大切にしなければならない。子どもの成長過程において、子どもが発信する音楽表現を受け止め、伸ばす必要がある。時には、子どもから引き出すこともある。本授業では、幼児教育に必要となる音楽的知識と技術を中心に学ぶ。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション、音楽表現活動の目的と意義	
第2回：子どものうた(1)子どもの声域や発達	
第3回：子どものうた(2)歌唱教材の選び方	
第4回：子どものうた(3)子どもの歌唱指導法	
第5回：子どものうた(4)フレーズを意識した手遊びうた	
第6回：楽典(1)譜表と音名、変化記号、音の長さ、リズム、拍子	
第7回：楽典(2)音楽用語や演奏記号	
第8回：楽典(3)長音階と短音階	
第9回：音の理解(1)主要三和音	
第10回：和音の理解(2)和音の展開形	
第11回：コードネームの理解(1)根音と和音を使った伴奏法	
第12回：コードネームの理解(2)分散和音を使った伴奏法	
第13回：歌唱の伴奏技術(1)歌いながらピアノを弾く方法	
第14回：歌唱の伴奏技術(2)移調と転調	
第15回：まとめ	
テキスト：『子どものうた[簡易伴奏曲付]』田中常雄、平島美保編著 圭文社(2011)	
『簡易ピアノ伴奏による 実用・子どものうた大全集』デプロMP著・編集(2011)	
『楽しい音楽表現：幼稚園教諭・保育士をめざす』植田光子他監修 圭文社(2009)	
参考書・参考資料等：随時提示する	
学生に対する評価：毎週の表現力(40%)、鑑賞力(20%)、授業態度(40%)	
・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	桂山 たかみ、松本 亜香里、岸田 恵、宮田 美佐、村木 清子
科目名	幼児の音楽II
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・子どもが音楽の表現力を育む活動をするための音楽的知識を深め、応用技術を習得する	
[到達目標]	
・音楽の基礎となるリズムや拍子の多様なパターンを理解する	
・子どもがメロディ音楽に触れ、表現するために必要となる鍵盤楽器の奏法および指導技術を習得する	
・子どもがうたを楽しみ、表現を広げる援助につながる伴奏技術を習得する	
授業の概要	
保育者は、子どもが自発的に表現する音楽、あるいは音楽的要素を受け、その表現を伸ばしたり展開を援助したりする技術が必要となる。本授業では、音楽Iで習得した幼児教育に必要となる音楽的知識をもとに応用知識と技術を習得する。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション、音楽用語や演奏記号の応用	
第2回：リズム(1)基礎リズム	
第3回：リズム(2)子どものうたのリズムパターン	
第4回：リズム(3)子どもの歌の拍子	
第5回：リズム(4)拍子とリズムの応用	
第6回：リトミック教育(1)リトミック教育とは	
第7回：リトミック教育(2)音にあわせた身体表現	
第8回：器楽(1)幼児教育楽器の基礎知識と奏法	
第9回：器楽(2)鍵盤ハーモニカ指導法	
第10回：器楽(3)鍵盤ハーモニカ応用	
第11回：子どものうた(1)童謡の伴奏技術	
第12回：子どものうた(2)手遊びうたの伴奏技術	
第13回：子どものうた(3)季節のうたの伴奏技術	
第14回：童謡の弾き歌いを通して、子どもの創造性を豊かにするための意義を理解する	
第15回：まとめ	
テキスト：『子どものうた[簡易伴奏曲付]』田中常雄、平島美保編著 圭文社(2011)	
『簡易ピアノ伴奏による 実用・子どものうた大全集』デプロMP著・編集(2011)	
『楽しい音楽表現：幼稚園教諭・保育士をめざす』植田光子他監修 圭文社(2009)	
参考書・参考資料等：随時提示する	
学生に対する評価：毎週の表現力(40%)、鑑賞力(20%)、授業態度(40%)	
・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	桂山 たかみ、岸田 恵、宮田 美佐、村木 清子
科目名	幼児の音楽III
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・保育者として必要なピアノ演奏技術を身につける	
[到達目標]	
・ピアノの基礎的な技術を習得する	
授業の概要	
<p>幼児教育において、音楽の果たす役割はきわめて重要である。子どもとの音楽表現活動を豊かに展開できるよう、ソルフェージュ等理論的知識を身に付けつつ、鍵盤楽器(ピアノ・マリンバ)の演奏等技術面の能力を身に付けることを目標とする。ピアノに関してはグループ(習熟度別)分けをして、一人ひとりの演奏能力に応じたレッスンを行い、音楽活動に必要となるピアノ演奏の基礎的技術の習得及び向上をはかる。</p>	
授業計画	
第1回：ガイダンス(講義概要説明、楽曲)	
第2回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた「おはよう」(C-dur)	
第3回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた「おべんとう」(C-dur)	
第4回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた「おかえりのうた」(C-dur)	
第5回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた「おむねをはりましょ」(C-dur)	
第6回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた「おでてをあらいましょう」(D-dur)	
第7回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた「あくしゅでこんにちは」(D-dur)	
第8回：ピアノ個人レッスン エチュード、生活のうた課題の確認	
第9回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた「虫のこえ」(C-dur)	
第10回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた「やきいもグーチーパー」(C-dur)	
第11回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた「どんぐりころころ」(C-dur)	
第12回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた「大きな栗の木の下で」(C-dur)	
第13回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた「山の音楽家」(F-dur)	
第14回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた「きのこ」(F-dur)	
第15回：ピアノ個人レッスン エチュード、秋のうた課題の確認	
テキスト：『子どものうた[簡易伴奏曲付]』田中常雄、平島美保編著 圭文社(2011)	
『簡易ピアノ伴奏による 実用・子どものうた大全集』デプロMP著・編集(2011)	
参考書・参考資料等：隨時提示する	
学生に対する評価：毎週の表現力(60%)、授業態度(40%)	
・表現力は、人前での表現(演奏力)をもとに評価	
・授業態度は、授業への参加度や意欲をもとに評価	

担当者	桂山 たかみ、岸田 恵、宮田 美佐、村木 清子
科目名	幼児の音楽IV
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・保育者として必要な音楽技術を高める	
〔到達目標〕	
・ピアノの技術向上に加え、弾き歌いなどの習得	
授業の概要	
<p>音楽IVでは、音楽IIIで習得した理論的知識や、ピアノ・マリンバ演奏の基礎的技術をもとに、個々の演奏能力・読譜能力をさらに伸ばすことを目標とする。また、童謡など弾き歌いに関する表現技術の習得及び向上をはかる。ピアノのレッスンに関しては、音楽III同様、適宜グループ(習熟度別)分けを実施し、受講者一人ひとりの課題を見出し、取り組むこととする。</p>	
授業計画	
第1回：ガイダンス(講義概要説明、楽曲)	
第2回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「とんぼのめがね」(C-dur)	
第3回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「アイアイ」(C-dur)	
第4回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「ありさんのおはなし」(F-dur)	
第5回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「七夕さま」(F-dur)	
第6回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「大きな古時計」(G-dur)	
第7回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「こいのぼり」(D-dur)	
第8回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた課題の確認	
第9回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「とんでったバナナ」(C-dur)	
第10回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「トマト」(F-dur)	
第11回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「アイスクリームのうた」(B-dur)	
第12回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「あめふりくまのこ」(D-dur)	
第13回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「とけいのうた」(D-dur)	
第14回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた「かたつむり」(D-dur)	
第15回：ピアノ個人レッスン エチュード、春～夏のうた課題の確認	
テキスト：『こどものうた[簡易伴奏曲付]』田中常雄、平島美保編著 圭文社(2011)	
『簡易ピアノ伴奏による 実用・こどものうた大全集』デプロMP著・編集(2011)	
参考書・参考資料等：随時提示する	
学生に対する評価：毎週の表現力(60%)、授業態度(40%)	
・表現力は、人前での表現(演奏力)をもとに評価	
・授業態度は、授業への参加度や意欲をもとに評価	

担当者	安藤 恒子
科目名	幼児の图画工作 I
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・基礎基本の内容を楽しく豊かに体得し、感性を磨く	
[到達目標]	
・基礎基本に関する表現技術を工夫し身につける(表現力) ・鑑賞を通して自分の表現の向上に繋げることができる(鑑賞力)	
授業の概要	
<p>图画工作に関わる基礎基本的な内容と、将来の幼児教育に携わる者として造形に関わる内容とを鑑みて、体系的に習得する。棒状描画材料や絵の具の使用方法等を将来、子どもたちに指導・支援やすい方法で体得する。身近な材料を使い、環境構成と関わって工夫したものづくりをする。その際、はさみや接着剤等の使用方法を体得する。季節感を大切にした題材を工夫し、発表の場を設けたり、展示を工夫したりして、つくり出す喜びと充実感を持つ。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：乳幼児の造形表現について	
第3回：丸が描ければあなたもアーティスト(発想する力)	
第4回：クレヨンやパスはお友達	
第5回：これはおどろきの絵の具の世界	
第6回：切って貼ってこいのぼり	
第7回：和紙にお絵かき	
第8回：ピカピカ元気の出るマイクは魔法のマイク	
第9回：はじき絵の世界	
第10回：折り紙アラカルト	
第11回：ペットボトルのカラフル人形	
第12回：アニメのキャラクターにチャレンジ	
第13回：かんたん版画	
第14回：けん玉ホイホイ	
第15回：感動!!スプレー画	
テキスト：『幼稚園教育要領』文部科学省 (2008年)	
参考書・参考資料等：『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』辻泰秀編著 萌文書林(2014)	
学生に対する評価：毎週の表現力(40%)、鑑賞力(20%)、授業態度(40%)	
・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	安藤 恒子
科目名	幼児の图画工作II
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・基礎基本の内容を楽しく豊かに体得し、感性を磨く	
[到達目標]	
・基礎基本に関する表現技術を工夫し身につける(表現力) ・鑑賞を通して自分の表現の向上に繋げることができる(鑑賞力)	
授業の概要	
图画工作に関する基礎的な内容と、将来の幼児教育に携わる者として造形に関する内容とを鑑みて、体系的に習得する。图画工作Iで習得した技術・技能を発展・応用した題材に取り組む。「テーマの設定、計画、表現、ふり返り」のサイクルを意識し、表現力を体得するようにする。また、季節に合った共同作品に取り組み、発表や展示の場を設けて、鑑賞のあり方について学ぶ。	
授業計画	
第1回：子どものものの見方と、表現との関連と、その指導	
第2回：人物を見て描く、静物を見て描く	
第3回：おもしろスタンピング(野菜の切り口などを使って)	
第4回：紙の帽子づくり(紙の接着)	
第5回：楽しいねん土遊び	
第6回：ステンドグラス風カード作り	
第7回：ごほうびメダル作り(異素材の接着)	
第8回：はっぱ等自然素材の扱い方	
第9回：とび出す絵カード作り(しくみ作り)	
第10回：とび出す絵カード作り(カッティング、接着、彩色)	
第11回：季節や行事の壁面構成画(テーマ、計画)	
第12回：季節や行事の壁面構成画(学習した技法を応用した製作)	
第13回：季節や行事の壁面構成画(発表)	
第14回：子どもの絵のすばらしさ(鑑賞を通して)	
第15回：图画工作I・IIで学んだことのまとめ(レポート)	
テキスト：文部科学省 幼稚園課程 指導書	
参考書・参考資料等：『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』辻泰秀編著 萌文書林(2014)	
学生に対する評価：毎週の表現力(40%)、鑑賞力(20%)、授業態度(40%)	
・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	渡邊 明宏
科目名	幼児の体育 I
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・子どもの発達の理解と運動遊びの習得	
〔到達目標〕	
・幼児期の発育・発達に関する基礎的な理論を修得する	
・身体活動を伴う様々な遊びの知識を得、その楽しさを体感する	
・遊具・用具の安全な扱い方を修得する	
授業の概要	
子どもの身体や運動機能の発育・発達に関する基礎的な理論について学習する。そして、円滑な発達を助長するために保育者に求められる運動遊びの知識を、実践をとおして修得する。実践では教材や遊具・用具の知識を得るとともに、安全を確保しながら子どもの運動体験を充実させるための配慮や援助の方法を体験しながら修得する。	
授業計画	
第1回：ガイダンス	
第2回：子どもの身体発達	
第3回：子どもの運動発達	
第4回：集団による運動遊び：基本的な鬼ごっこ	
第5回：集団による運動遊び：基本的な鬼ごっこ	
第6回：集団による運動遊び：発展的な鬼ごっこ	
第7回：集団による運動遊び：その他の伝承遊び	
第8回：集団による運動遊び：ボール遊び	
第9回：運動器具を用いる遊び：マット	
第10回：運動器具を用いる遊び：跳び箱	
第11回：運動器具を用いる遊び：平均台	
第12回：道具を用いる遊び：縄跳び	
第13回：道具を用いる遊び：フープ	
第14回：サーキット遊びの実践	
第15回：振り返りとまとめ	
テキスト：『幼児の楽しい運動遊びと身体表現』 穂丸武臣、花井 忠征編 圭文社(2010)	
参考書・参考資料等：『幼児期運動指針実践ガイド』 日本発育発達学会編 杏林書院(2014)	
学生に対する評価：受講姿勢(50%)、提出物(50%)	
・受講姿勢は、毎回提出するコメントの記述内容を評価	
・提出物は、提示した課題に対する成果を評価	

担当者	渡邊 明宏
科目名	幼児の体育II
開講時期	2年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動遊び・集団遊びの幅広い知識とその指導方法の修得 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動遊びに関する幅広い知識を修得する 安全に配慮しつつ、充実した遊び指導を立案・実施する 体育的行事に関する知識と実施上の留意点を修得する 	
<p>授業の概要</p> <p>身体活動による表現について理解を深め、子どもが動くことによって自らのイメージを表現するための配慮や援助の方法を習得する。基本的な動作や運動スキルを体得し、身近な素材や遊具を活用した身体の動きを体験する。また、音楽やリズムに合わせた体操を創作し、子どもの感性や創造性を育むための実践について学ぶ。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：子どもの遊びの現状</p> <p>第3回：子どもと大人の触れ合い：乳児期の遊び</p> <p>第4回：子どもと大人の触れ合い：幼児期の遊び</p> <p>第5回：身近な生活用品を用いる遊び</p> <p>第6回：身近な自然をとおした遊び</p> <p>第7回：体育的行事：園外保育・運動会・水遊び</p> <p>第8回：体育的行事：運動会の種目・遊び</p> <p>第9回：室内でのレクリエーション</p> <p>第10回：運動遊び指導の考え方と注意点</p> <p>第11回：運動遊び指導の立案</p> <p>第12回：運動遊び指導の実践：前半グループによる模擬保育の実施と記録</p> <p>第13回：運動遊び指導の実践：後半グループによる模擬保育の実施と記録</p> <p>第14回：運動遊び指導の評価・反省</p> <p>第15回：振り返りとまとめ</p>	
<p>テキスト：『幼児の楽しい運動遊びと身体表現』権丸武臣、花井忠征編 圭文社(2010)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会編 杏林書院(2014)</p>	
<p>学生に対する評価：受講姿勢(50%)、提出物(50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講姿勢は、毎回提出するコメントの記述内容を評価 提出物は、提示した課題に対する成果を評価 	

担当者	伊藤 康明
科目名	幼児の生活 I
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・生活と自然とのかかわり	
〔到達目標〕	
・日常生活と自然とのかかわりに关心を持ち、具体的活動や体験を通して、自立への基礎を養うことの大切さを知る	
授業の概要	
子どもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに关心を持ち、自分自身や生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する。	
授業計画	
第1回：ガイダンス	
第2回：生活科の目標と内容	
第3回：生活圏としての環境	
第4回：幼児期に体験させておきたい活動	
第5回：自分自身の生活と成長	
第6回：四季の変化と生き物	
第7回：四季の変化と行事	
第8回：四季の変化と天気	
第9回：四季の変化と地球	
第10回：四季の変化と天体	
第11回：身近な自然を利用した遊び	
第12回：遊びの工夫と道具の制作	
第13回：動物の飼育	
第14回：植物の栽培	
第15回：まとめ	
テキスト：『小学校学習指導要領解説「生活」編』文部科学省 日本文教出版(2008)	
参考書・参考資料等：『気付きの質を高める生活科指導法』原田信之、須本良夫、友田靖雄編著 東洋館出版社(2011)	
学生に対する評価：レポート(50%)、授業態度(50%)	
・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価	
・授業態度は、授業への参加度をもとに評価	

担当者	伊藤 康明
科目名	幼児の生活Ⅱ
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・身近な自然の観察	
〔到達目標〕	
・身近な自然に关心を持ち、遊びや生活を工夫できるようになる	
授業の概要	
<p>身近な自然に目を向けるため、道端の草花や学内の樹木、これらに付く虫などを観察する。水や氷の性質を詳しく調べることにより、液体の性質やシャボン玉の不思議について知る。毎日の天気の観察から季節の変化を知り、生活の様子が変わることに気付く。光、音、電気に関連した身近な実験に触れ、興味・关心を持つ。太陽や月などの身近な天体の動きについて調べる。このような自然との関わりを中心とした授業の中で、自分たちの生活の工夫や遊びへのつながりについて考える。直接体験できないものは、補助教材としてICTを活用する。</p>	
授業計画	
第1回：ガイダンス	
第2回：身近な草花	
第3回：身近な樹木	
第4回：身近な動物	
第5回：水と氷	
第6回：雨と雪	
第7回：季節の変化	
第8回：ゴムやばねの伸び	
第9回：地震	
第10回：光と影	
第11回：音と音楽	
第12回：電気と磁石	
第13回：太陽と地球	
第14回：星空の動き	
第15回：まとめ	
テキスト：『小学校学習指導要領解説「生活」編』文部科学省 日本文教出版(2008)	
参考書・参考資料等：『気付きの質を高める生活科指導法』原田信之、須本良夫、友田清雄編著 東洋館出版社(2011)	
学生に対する評価：レポート(50%)、授業態度(50%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	田村 賢章
科目名	レクリエーション論
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものレクリエーションの意義を理解する <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しさ、遊び、笑顔を基調とした「レクリエーション」に関する知識・技術を修得する ・レクリエーション支援方法や事業方法をとおして目的と対象者にあわせたレクリエーション支援ができる ・レクリエーションの意義を踏まえ総合計画にそった実践的評価が理解できる 	
<p>授業の概要</p> <p>保育士や幼稚園教諭は、本来的に「遊び」を必要とする存在(子ども)に関わる援助や教育を実施する専門職である。子どももだけに留まらず、生活への潤いや安らぎ、そして、楽しさや喜びは保育や教育のあらゆる場面のなかで、あらゆる世代で取り組まなければならない課題がレクリエーションである。本講義では、レクリエーション活動(事業)の意義と目的を概説し、アイスブレーキングの方法、ホスピタリティの効果などを用い、地域で活躍するレクリエーション・インストラクターの基礎的な能力を向上する授業を実施する。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション ～レクリエーションとは何か～</p> <p>第2回：アイスブレーキングについて</p> <p>第3回：グループ形成と集団でのレクリエーション支援</p> <p>第4回：コミュニケーション方法の工夫とレクリエーション</p> <p>第5回：目的・対象に合せたレクリエーションワーク</p> <p>第6回：レクリエーション総合計画の立案とレクリエーション実践</p> <p>第7回：レクリエーション実技① ～キンボールスポーツ～</p> <p>第8回：レクリエーション実技② ～ペタンク、チャレンジ・ザ・ゲーム～</p> <p>第9回：レクリエーション実技③ ～インディアカ、運動遊び～</p> <p>第10回：グループでのレクリエーション活動の計画</p> <p>第11回：グループレク活動実践演習(準備)</p> <p>第12回：グループレク活動実践演習(発表)</p> <p>第13回：グループレク活動実践演習(評価)</p> <p>第14回：実技とレクリエーションの個別実践</p> <p>第15回：講義で学習した内容の振り返りとまとめ</p>	
<p>テキスト：『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レクリエーション協会(2007)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』(財)日本レクリエーション協会(2013) 『楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施』(財)日本レクリエーション協会(2013) 『楽しさの追求を支えるための介入技術』(財)日本レクリエーション協会(2013)</p>	
<p>学生に対する評価：受講態度(20%)、共同作業(30%)、実技審査(20%)、筆記試験(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講態度は、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価 ・共同作業は、協調性を持って授業の取り組み状況を評価 ・実技審査は、授業者が掲げる目標に到達しているかを評価 ・筆記試験は、必要な知識の理解度について評価 	

担当者	松本 亜香里、伊藤 喬治
科目名	保育実習II
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・保育士として必要な知識・技術・マインドについて実習を通して学ぶ	
〔到達目標〕	
・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める	
・子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める	
・保育および保護者支援について、既習の教科や実習を踏まえ総合的に学ぶ	
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する	
・保育士としての自己課題を明確化する	
授業の概要	
保育実習Iをもとに、その内容を深めながら、「保育の展開と方法」「保育の環境構成と整備」「保育士の職務と役割」について、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。	
授業計画	
実習時期(予定)	
〔保育所〕	
平成30年9月 保育所実習 10日間	
テキスト：『福祉施設実習ガイドブック』三重県施設実習研究協議会(2016)	
参考書・参考資料等：	
学生に対する評価：保育所実習での評価(50%)、実習記録の状況(50%)を総合的に考慮して評価	

担当者	松本 亜香里、伊藤 喬治
科目名	保育実習指導II
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育課科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・保育について総合的に学ぶ	
〔到達目標〕	
・保育の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ	
・既習の教科や実習での経験を踏まえ、保育実践力を培う	
・保育士の専門性と職業倫理について理解する	
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする	
授業の概要	
保育実習IIに向けて、新たな自己課題を立て、保育実習Iを通して学んだことを理論的に意識化していく。実習前には、保育実習Iを振り返って、乳幼児の生活や遊びの姿、保育士の仕事や乳幼児に対する関わりなど保育実践の実際について整理する。記録や提出書類の書き方や教材研究の実際に加え、指導計画の立案準備をする。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：乳児の理解(1) 0歳児の発達とかかわり	
第3回：乳児の理解(2) 1歳児の発達とかかわり	
第4回：乳児の理解(3) 2歳児の発達とかかわり	
第5回：幼児の理解(1) 3歳児の発達とかかわり	
第6回：幼児の理解(2) 4歳児の発達とかかわり	
第7回：幼児の理解(3) 5歳児の発達とかかわり	
第8回：保育指導案の書き方(1) 子どもの姿の捉え方	
第9回：保育指導案の書き方(2) 活動のねらい	
第10回：保育指導案の書き方(3) 環境構成	
第11回：保育指導案の書き方(4) 子どもの活動	
第12回：保育指導案の書き方(5) 保育者の援助・留意点	
第13回：事後指導(1) 実習の総括と自己評価	
第14回：事後指導(2) 自己および保育に対する課題の明確化	
第15回：まとめ	
テキスト：『福祉施設実習ガイドブック』三重県施設実習研究協議会(2016)	
参考書・参考資料等：	
学生に対する評価：授業態度(70%)、提出物(30%)をもとに総合的に判断する	
・授業態度について、居眠り、欠席等が著しいものは実習への参加を認めない	

担当者	田村 賢章、丸山 あけみ
科目名	保育実習III
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・保育士として必要な知識・技術・マインドを実習を通して学ぶ	
〔到達目標〕	
・施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める	
・保育所以外で勤務する保育士の業務内容や、職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する	
授業の概要	
<p>保育所以外の児童福祉施設等の養護全般に参加し、様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。また、施設保育士の倫理・職務等について理解する。さらに、子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得し、地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。以上の事柄をとおして、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させ、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズを理解させるとともに、地域の子育て支援に必要とされる能力を養うこととする。</p>	
授業計画	
実習時期(予定)	
〔施設〕	
平成30年9月 保育所以外の児童福祉施設 10日間	
テキスト：『基本保育シリーズ 保育実習』児童育成協会監修、近賀晴子、寅屋壽廣、松田純子編 中央法規(2016)	
参考書・参考資料等：	
学生に対する評価：児童福祉施設での評価(50%)、実習記録の状況(50%)を総合的に考慮して評価	

担当者	田村 賢章、丸山 あけみ
科目名	保育実習指導III
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・児童福祉施設等における保育について、総合的に学ぶ	
[到達目標]	
・児童福祉施設や施設における社会的養護及び保育に関する理解を深める	
・乳幼児理解をさらに深める	
・施設における保育士の役割に対する理解を深める	
・指導案の立案に対する理解を深める	
授業の概要	
保育実習IIIの新たな自己課題に向けて、援助計画を立てて養護の実際を実践する際に必要な保育士の資質・能力・技術が習得できるように、保育実習 I を通して学んだことを理論的に意識化していく。子どもとの家族とのコミュニケーション、地域への理解や連携の方法を学ぶことを通して、子育て支援、保護者に対する支援への理解を基に保育実習 I を通して学んだことをさらに理論化していく。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、施設の特性や保育士の仕事、入所児(者)についての理解を深める。	
授業計画	
第1回：施設養護の目的や意義	
第2回：施設で暮らす子どもや利用者の理解	
第3回：施設保育士の業務	
第4回：家庭支援に向けた保護者支援	
第5回：施設における養護内容	
第6回：個別支援、生活の質を高めるための支援の工夫	
第7回：施設内の生活環境、衛生、安全管理	
第8回：児童福祉施設における実習の留意点 乳児院、母子生活支援施設	
第9回：児童福祉施設における実習の留意点 児童養護施設	
第10回：障害者施設等における実習の留意点 障害児入所施設	
第11回：障害者施設等における実習の留意点 障害者支援施設	
第12回：実習後の振り返りと自己評価	
第13回：実習の振り返りからみえてくる自己課題	
第14回：卒業までの学習計画を立てる	
第15回：学びを深めるために	
テキスト：『基本保育シリーズ保育実習』児童育成協会監修、近喰晴子、寅屋壽廣、松田純子編 中央法規(2016)	
参考書・参考資料等：	
学生に対する評価：授業態度(70%)、提出物(30%)をもとに総合的に判断する	
・授業態度について、居眠り、欠席等が著しいものは実習への参加を認めない	

担当者	川勝泰介、田中雅章、伊藤康明、十津守宏、松本亜香里、田村禎章、伊藤喬治、渡邊明宏、丸山あけみ
科目名	基礎ゼミナールⅠ
開講時期	1年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・社会人としての「社会人基礎力」を身につける	
[到達目標]	
・社会人としてふさわしい言葉遣いや身だしなみを習得する	
・社会人になるための「学び」を理解し、「学び」を実践する	
・社会人になる大学生として、基礎的な学力を習得する	
授業の概要	
充実した大学生活を送るためには、まず大学において様々な事柄を主体的に学ぶ技法を身に付けることが求められる。本授業では大学生として必要とされる基礎的な学力やコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：初年次教育①(大学での学び)	
第3回：初年次教育②(学生生活の意義)	
第4回：初年次教育③(求められる敬語やマナー)	
第5回：初年次教育④(基礎的文章力を育てる：文章構成)	
第6回：初年次教育⑤(基礎的文章力を育てる：語彙)	
第7回：グループ討議の方法と実践①(心構え)	
第8回：グループ討議の方法と実践②(要領)	
第9回：グループ討議の方法と実践③(司会等の役割分担)	
第10回：レポートの書き方①(構成・書式)	
第11回：レポートの書き方②(引用・図表の基本)	
第12回：レポートの書き方③(レポートの実際)	
第13回：レポートを用いての討議①(前半グループ)	
第14回：レポートを用いての討議②(後半グループ)	
第15回：振り返りとまとめ	
テキスト：『保育者になるために—保育の基本と学生生活の過ごし方』中田カヨ子、岡本富郎、相馬和子他著 萌文書院(2008)	
参考書・参考資料等：『保育者になるための国語表現』田上貞一郎著 萌文書院(2010)	
学生に対する評価：課題・レポートの提出状況(40%)、参加意欲・授業貢献(60%)	
・課題・レポートは、提出された分量・内容から評価	
・参加意欲・授業貢献は、積極的な発言など授業に対する取り組みを中心に評価	

担当者	川勝泰介、田中雅章、伊藤康明、十津守宏、松本亜香里、田村禎章、伊藤喬治、渡邊明宏、丸山あけみ
科目名	基礎ゼミナールⅡ
開講時期	1年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・社会人としての「社会人基礎力」をさらに高める	
〔到達目標〕	
・社会人としてふさわしい言葉遣いや身だしなみを習得する	
・社会人になるための「学び」を理解し、「学び」を実践する	
・社会人になる大学生として、必要とされるコミュニケーション能力を習得する	
授業の概要	
基礎ゼミナールⅠで培ったスキルをさらに発展すべく、グループでの議論や、他者に対して自らの考えを論理的に説明できる能力、学習の成果を発表するプレゼンテーション能力など、さらなるコミュニケーション能力の向上を図る。	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：「社会人基礎力」とは	
第3回：「社会人基礎力」を培う①(身だしなみ)	
第4回：「社会人基礎力」を培う②(言葉遣い)	
第5回：「社会人基礎力」を培う③(自己分析)	
第6回：「社会人基礎力」を培う④(チームワークの重要性)	
第7回：チームワークを深める①(グループワーク)	
第8回：チームワークを深める②(ブレーンストーミングとKJ法)	
第9回：チームワークを深める③(グループ発表とリフレクションシートによる相互評価)	
第10回：考え方をさらに深める①(グループワーク)	
第11回：考え方をさらに深める②(ブレーンストーミングとKJ法)	
第12回：考え方をさらに深める③(グループ発表)	
第13回：「社会人基礎力」を確実にする①(前に踏み出す力とは何か、グループ討議)	
第14回：「社会人基礎力」を確実にする②(前に踏み出す力とは何か、グループ討議)	
第15回：振り返りとまとめ	
テキスト：『求められる人材になるための社会人基礎力講座』山崎紅著 池内 健治監修 日経BP社(2012)	
参考書・参考資料等：『日本語検定 公式過去問題集 3訂版 2級』日本語検定協会編 東京書籍(2016)	
学生に対する評価：課題・レポートの提出状況(40%)、参加意欲・授業貢献(60%)	
・課題・レポートは、提出された分量・内容から評価	
・参加意欲・授業貢献は、積極的な発言など授業に対する取り組みを中心に評価	

担当者	堀建治、川勝泰介、田中雅章、伊藤康明、十津守宏 松本亜香里、伊藤喬治、渡邊明宏、田村禎章、丸山あけみ
科目名	専門ゼミナールⅠ
開講時期	2年 前期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕 ・保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性について実践的に理解する	
〔到達目標〕 ・テーマに沿った形での実践を計画・立案・実践・省察を繰り返すことで実践力を高める ・専門職として必要とされるコミュニケーション能力について実践的に理解する	
授業の概要	
本ゼミナールは、幼児教育、あるいは保育の場面で必要とされる専門的知識及び技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育に対する課題設定、保育教材の開発、保育の計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身に付ける。	
授業計画	
第1回：全体オリエンテーション	
第2回：担当教員によるオリエンテーション	
第3回：実践1にむけての計画	
第4回：実践1にむけての準備・教材作成	
第5回：実践1	
第6回：実践1の振り返り	
第7回：実践2にむけての計画	
第8回：実践2にむけての準備・教材作成	
第9回：実践2	
第10回：実践2の振り返り	
第11回：実践3にむけての計画	
第12回：実践3にむけての準備・教材作成	
第13回：実践3	
第14回：実践3の振り返り	
第15回：まとめ	
テキスト：『幼稚園教育要領』文部科学省編 フレーベル館(2008) 『保育所保育指針』厚生労働省編 フレーベル館(2008) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
参考書・参考資料等：必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する	
学生に対する評価：レポート(50%)、活動に対する取り組み(50%) ・レポートは、提出された分量、内容から評価 ・活動に対する取り組みは、計画、立案、実践等の状況を総合的に評価	

担当者	堀建治、川勝泰介、田中雅章、伊藤康明、十津守宏 松本亜香里、伊藤喬治、渡邊明宏、田村禎章、丸山あけみ
科目名	専門ゼミナールⅡ
開講時期	2年 後期 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕 ・保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める	
〔到達目標〕 ・専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める ・専門職として必要とされる「研究力」について、発表・討論等を通じて実践的に学ぶ	
授業の概要	
専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。	
授業計画	
第1回：全体オリエンテーション	
第2回：担当教員によるオリエンテーション	
第3回：成果レポートの作成準備①(ゼミ内討論、方向性の確認)	
第4回：成果レポートの作成準備②(ゼミ内討論、序論下書き作成)	
第5回：成果レポートの作成準備③(ゼミ内討論、本文下書き作成)	
第6回：成果レポートの作成準備④(ゼミ内討論、結論下書き作成)	
第7回：成果レポート中間報告	
第8回：成果レポートの執筆①(序論)	
第9回：成果レポートの執筆②(本論)	
第10回：成果レポートの執筆③(結論)	
第11回：成果レポートの執筆④(遂行)	
第12回：成果発表会にむけての準備	
第13回：成果発表会	
第14回：成果発表会の振り返り	
第15回：1年間のまとめと振り返り	
テキスト：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
参考書・参考資料等：必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する	
学生に対する評価：レポート(50%)、活動に対する取り組み(50%)	
・レポートは、提出された分量・質、内容から評価	
・活動に対する取り組みは、計画、立案、実践等の状況を総合的に評価	

担当者	堀 建治、川勝 泰介、松本 亜香里、渡邊 明宏
科目名	幼稚園教育実習 I
開講時期	1年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・幼稚園教諭として必要とされる基礎的知識・技術について実践的に考える	
〔到達目標〕	
・幼稚園や幼稚園教育に関してイメージする	
・子どもの動きや遊びの様子など、観察を通じて学ぶ	
・幼稚園教諭の役割等について、観察を通じて理解する	
授業の概要	
大学での幼児教育に対する理論や技術を基盤として、1年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの活動、遊びの姿、幼稚園教諭の役割を観察、あるいは保育活動に参加し記録を取りながら、「保育の展開と方法」、「保育の環境構成と整備」、「保育者の役割」について学習する。	
授業計画	
以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。	
第1週	
・オリエンテーション、園の理念・方針の理解	
・観察実習 (1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ)	
・参加実習(幼児の理解、幼児の生活等、幼稚園教諭の補助的なかわりから学ぶ)	
テキスト：『考え方、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著 保育出版社(2011)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：実習園の評価(50%)、提出物(50%)	
・課題や提出物は、質、量の両面から判断するとともに、期限内に提出されること	

担当者	堀 建治、川勝 泰介、松本 亜香里、渡邊 明宏
科目名	幼稚園教育実習Ⅱ
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・幼稚園教諭として必要な資質、なる知識・技術の修得をめざす	
〔到達目標〕	
・子どもの姿や幼稚園教諭のあり方について、実践を通じて理解を深める	
・指導案の立案・実施について実践を通じて理解する	
・幼稚園教諭としての職業倫理について学ぶ	
授業の概要	
幼稚園教育実習Ⅰでの学習を基盤として、2年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの動きや遊びへの関わり、幼稚園教諭の役割をさらに理解するため、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。	
授業計画	
以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。	
第1週	
・オリエンテーション、園の理念・方針の理解	
・観察実習(1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等)	
第2週	
・参加実習(遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解)	
第3週	
・参加実習(遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解)	
・責任実習(部分実習、半日実習、全日実習等、担当教諭に代わり、担当クラスにおける指導計画を立案、作成し、保育を実施する。)	
テキスト：『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著 保育出版社(2011)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：実習園の評価(50%)、提出物(50%)	
・課題や提出物は、質、量の両面から判断するとともに、期限内に提出されること	

担当者	堀 建治、川勝 泰介、松本 亜香里、渡邊 明宏
科目名	幼稚園教育実習事前事後指導
開講時期	1年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・「幼稚園教諭」としての基本的資質を考える	
〔到達目標〕	
・「幼稚園教育実習」を通じて、「幼稚園教諭」として必要となる専門性を学ぶ	
授業の概要	
<p>大学において学習した理論や技術を教育実習に活用するうえで必要とされる事柄について学習する。幼稚園の特徴や幼稚園教諭の役割の理解を始め、記録の作成方法、子どもへの関わり方、環境への関わり方、遊び・保育教材の研究、実習にむけての課題の作成、指導計画の作成、保育内容や方法に対する理解を深める。実習後は、実習での経験を記録等から振り返り、気付きや学びを記録に残すことによって、次の実習への新たな課題を発見することをねらいとする。</p>	
授業計画	
第1回：教育実習の意義	
第2回：教育実習にむけての心構え①(マナー・生活態度)	
第3回：実習園の選定・実習依頼の方法	
第4回：実習園の決定・実習依頼書類について	
第5回：教育実習にむけての抱負の作成	
第6回：教育実習にむけての課題の作成	
第7回：実習記録の書き方①(保育の「ねらい」や「内容」)	
第8回：実習記録の書き方②(環境構成)	
第9回：実習記録の書き方③(子どもの姿・教師の留意点)	
第10回：指導案作成について①(部分実習)	
第11回：指導案作成について②(全日実習)	
第12回：教育実習にむけての心構え②(外部指導師による講演)	
第13回：教育実習直前のオリエンテーション	
第14回：教育実習事後指導①(自己評価・抱負と課題から)	
第15回：教育実習事後指導②(今後にむけての課題)	
テキスト：『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫著 保育出版社(2011)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)	
学生に対する評価：課題・提出物(40%)、レポート(60%)	
・課題や提出物は、質、量の両面から判断するとともに、期限内に提出されること	
・レポートは、質、量の両面から判断	

担当者	小島 佳子
科目名	乳幼児の理解
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の理解と援助について <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達について理解し、具体的な支援方法を学び、実践力を身につける ・子どもの理解に必要な視点、手立てについて学ぶ 	
<p>授業の概要</p> <p>乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である。この時期に携わる保育者は、子どもを深く理解するよう努め、適切な援助を行うことが求められる。</p> <p>本講義においては、乳幼児の発達の特性や遊び、環境や生活のあり方などを理解するとともに、保育において子どもの内面を理解することの重要性について学ぶ。また、具体的な事例を通して、子どもの発達を踏まえた援助のあり方や保護者支援について学ぶ。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業の概要と目的、授業計画、成績評価の方法など</p> <p>第2回：乳幼児期の発達と特性①(0歳児～2歳児)</p> <p>第3回：乳幼児期の発達と特性②(3歳児～5歳児)</p> <p>第4回：保育における子ども理解</p> <p>第5回：保育者の援助を考える(生活場面)</p> <p>第6回：保育者の援助を考える(遊び場面)</p> <p>第7回：子どもの理解と援助 事例から学ぶ① (0・1歳児)</p> <p>第8回：子どもの理解と援助 事例から学ぶ② (2・3歳児)</p> <p>第9回：子どもの理解と援助 事例から学ぶ③ (4・5歳児)</p> <p>第10回：子どもの理解と援助 事例から学ぶ④ (特別な支援が必要な子ども)</p> <p>第11回：保育計画と評価</p> <p>第12回：職員連携と保育カンファレンス</p> <p>第13回：保護者支援とかかわりの基本</p> <p>第14回：地域、他機関との連携</p> <p>第15回：授業の振り返り</p>	
<p>テキスト：『幼稚園教育指導資料 第3集 幼児理解と評価』文部科学省編著 ぎょうせい(2010)</p> <p>『保育所保育指針ハンドブック』大場幸夫監修 学研プラス(2008)</p> <p>『幼稚園教育要領ハンドブック』無藤隆監修 学研プラス(2008)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『保育者の地平 ～私的体験から普遍に向けて』津守真著 ミネルヴァ書房(1997)</p>	
<p>学生に対する評価：確認テスト・課題提出(60%)、授業態度(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト・課題は授業の理解度をはかるために実施。内容により評価 ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	丸山 あけみ
科目名	障がい児の理解
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもについて知識を習得し、理解を深めて保育の専門性を高める <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害の特性について学び、障害のある子どもについて理解する ・特別な支援を必要とする子どもについての理解を深め、多様な保育のあり方を考察し、より専門性の高い保育について学ぶ 	
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、障害のある子ども・特別な支援を必要とする子どもの特性について学び、子どもへの理解を深める。また、その家族を含め、保育の専門家として支援のあり方を考える。具体的には、障害のある子どもや特別な支援を必要としている子どもや家族に関する事例を紹介し、そこから生起する問題についていろいろな対応や支援の方法を考える。それには、保育者として理論と実践を結びつけて様々な課題と向き合い、専門的な知識を持って実践する方法を習得する学びを進めていく。最終的に、より専門性の高い保育・教育を目指す。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要、目的</p> <p>第2回：障害の捉え方と障害児保育の理念</p> <p>第3回：障害児保育と保育者の専門性</p> <p>第4回：障害のある子どもと気になる子ども</p> <p>第5回：身体障害の特性と理解 グループ学習(肢体不自由、視覚・聴覚障害)</p> <p>第6回：発達障害の特性と理解① グループ学習(注意欠陥・多動性障害、学習障害)</p> <p>第7回：発達障害の特性と理解② グループ学習(自閉症スペクトラム障害)</p> <p>第8回：知的障害の特性と理解 グループ学習</p> <p>第9回：気になる子どもの理解(落ち着きのない子ども、被虐待児等)</p> <p>第10回：障害のある子ども等の兄弟や家族を対象としたアセスメント</p> <p>第11回：特別な支援を必要とする子どもの保育① 障害のある子どもの事例検討</p> <p>第12回：特別な支援を必要とする子どもの保育② 気になる子どもの事例検討</p> <p>第13回：特別な支援を必要とする子どもの保育③ 被虐待児の事例検討</p> <p>第14回：障害児の理解のまとめと、保育の専門性を高める研修のあり方</p> <p>第15回：障害児を取り巻く家族と福祉の課題</p>	
<p>テキスト：『障碍児保育ワークブック』星山麻木 編著 萌文書林(2012)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『障碍児保育』藤永保監修 萌文書林(2015)</p>	
<p>学生に対する評価：発表態度・授業態度(40%)、確認テスト・課題提出(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表態度、授業態度は、授業への参加度をもとに評価 ・確認テスト・課題は、授業の理解度をはかるために実施する。分量・内容により評価 	

担当者	小島 佳子
科目名	障がい児の支援
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>〔テーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもへの理解と支援について <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障がいについて、その特性を理解し、支援のあり方を学ぶ ・子ども同士の関わりを育み、共に育ち合うインクルーシブ保育について、実践事例を通して学び、理解する ・保護者への支援や関係機関との連携について学ぶ 	
<p>授業の概要</p> <p>「障害児保育」の基本的な理念や歴史について理解し、障がいの基本的な理解、保護者支援及び関係機関との連携について学ぶ。そして、保育の場で気づく子どもの発達上のつまずきについて学び、保育者として、「成長発達の課題に対する支援」という観点から支援のあり方を考える。また、保育実践を通して、障がいの有無に関わらず、違いを認め合い、支え合って生きていくインクルーシブ保育の基本について学ぶ。</p>	
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業の概要と目的、授業計画、成績評価の方法など</p> <p>第2回：障がいとは何か・「障がいがある」とは</p> <p>第3回：「障害児保育」の基本</p> <p>第4回：「障害児保育」の歴史</p> <p>第5回：障がいの理解と保育① 身体障がい</p> <p>第6回：障がいの理解と保育② 知的障がい・発達障がい</p> <p>第7回：発達が気になる子どもの理解と保育</p> <p>第8回：子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価（個別の支援計画）</p> <p>第9回：障がいのある子どもに学ぶ保育実践①（生活や遊びの環境）</p> <p>第10回：障がいのある子どもに学ぶ保育実践②（インクルーシブ保育）</p> <p>第11回：職員間の協力関係と学び合い</p> <p>第12回：保護者への支援</p> <p>第13回：家庭・関係機関との連携</p> <p>第14回：「障害児保育」の現状と課題</p> <p>第15回：授業の振り返り</p>	
<p>テキスト：『実践こなす障害児保育』前田泰弘編著 萌文書林(2016)</p>	
<p>参考書・参考資料等：『最新保育講座 障害児保育』鯨岡峻編 ミネルヴァ書房(2013)</p> <p>『発達支援のむこうとこちら』田中康雄著 日本評論社(2011)</p> <p>『新しい発達と障害を考える本シリーズ』内山登喜夫監修 ミネルヴァ書房(2013-)</p>	
<p>学生に対する評価：確認テスト・課題提出(60%)、授業態度(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト・課題は、授業の理解度をはかるために実施。内容により評価 ・授業態度は、授業への参加度をもとに評価 	

担当者	堀 建治、伊藤 喬治、丸山 あけみ
科目名	子育て支援演習
開講時期	2年 通年 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
[テーマ]	
・幼児教育者・保育者として子育て支援についての意義を実践から学ぶ	
[到達目標]	
・子育て支援の場に出向き、実際の支援のあり方に触れる	
・子育て支援プログラムの立案について理解を深める	
・子育て支援プログラムの実践を通じて、自身の支援力を高める	
授業の概要	
<p>今日、未就園児・未就学児がいる子育て家庭に対して様々な支援が必要となってきた。特に子どもへの支援のみならず、子どもを抱える保護者に対する助言、援助が必要とされている。本授業は地域における子育て支援のあり方について、大学周辺の子育て支援関連施設に出向いて、子育て支援に必要とされるプログラムを体験する。同時に学生自身がプログラムを企画・実施することを通じて、保育者として子育て支援に必要とされる知識や技術を修得する。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：効果的な指導案の作成について(現場園長からの特別講義)	
第3回：子育て支援の実際①(現場での見学)	
第4回：子育て支援の実際②(現場での参加)	
第5回：子育て支援に参加しての報告	
第6回：支援プログラムの作成①(内容の検討)	
第7回：支援プログラムの作成②(指導案作成)	
第8回：子育て支援教室にむけての準備①(教材選定)	
第9回：子育て支援教室にむけての準備②(教材作成)	
第10回：子育て支援教室にむけての準備③(リハーサル)	
第11回：子育て支援教室の実施①(導入)	
第12回：子育て支援教室の実施②(展開)	
第13回：子育て支援教室の実施③(まとめ)	
第14回：子育て支援教室での反省	
第15回：まとめ、グループによる成果発表	
テキスト：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
参考書・参考資料等：特になし	
学生に対する評価：議論、事前準備等の貢献度(20%)、現場における研究保育(指導を含む)(60%)、レポート(20%)	

担当者	田中 雅章、十津 守宏、丸山 あけみ
科目名	地域ボランティア実践
開講時期	1年 通年 必修
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・ボランティアの基本である他人への思いやりの意義を実践から学ぶ	
〔到達目標〕	
・ボランティア精神に基づく地域との関わり方に触れる	
・ボランティア活動が地域の生活にもたらす理解を深める	
・ボランティア活動の実践を通じて、自身の「つながり」を高める	
授業の概要	
<p>現代社会においてボランティア活動の重要性が増大してきている。私たちの社会が少子高齢化社会となり、特に地域に密着したボランティア活動の意義はいっそう重要なものとなってきている。大学が所在する近隣地域でのボランティア活動を実践することを通じて、地域の状況を知るともに、地域社会に生活する様々な人との交流を通じて、学生自身のさらなるコミュニケーション能力の伸長を図る。</p>	
授業計画	
第1回：オリエンテーション	
第2回：ボランティアの基礎知識と地域との関わり	
第3回：ボランティア活動の実践①(現場での見学)	
第4回：ボランティア活動の実践②(現場での参加)	
第5回：ボランティア活動に参加した報告会	
第6回：ボランティアプログラムの作成①(企画・内容の検討)	
第7回：ボランティアプログラムの作成②(実践案の作成)	
第8回：ボランティアイベントの準備①(教材の選定)	
第9回：ボランティアイベントの準備②(教材の作成)	
第10回：ボランティアイベントの準備③(リハーサル、動線の確認)	
第11回：ボランティアイベントの実施①(導入)	
第12回：ボランティアイベントの実施②(展開)	
第13回：ボランティアイベントの実施③(まとめ)	
第14回：ボランティアイベントの反省・総括	
第15回：まとめ グループ別による活動成果を発表する	
テキスト：『学生のためのボランティア論』岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子著 大阪ボランティア協会(2006)	
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)	
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)	
学生に対する評価：事前準備等の貢献度(20%)、ボランティア実践(60%)、レポート(20%)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事前準備等は、他の学習者と協調性を持って準備へ取り組みを評価 ・ボランティア実践は、積極的な現場活動の働きかけを評価 ・レポートは、レポートの内容及び分量から評価 	

担当者	鈴木 壽眞子
科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営
開講時期	2年 前期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・子どものための施設の機能と運営方法を理解する	
〔到達目標〕	
・児童館や関連施設の現場において、修得した技術を効果的に活用し、現場で対応できる児童厚生員を目指す	
授業の概要	
児童館の社会的立場や役割、機能についての理解を深めるとともに、その児童館に勤務する児童厚生員の使命や社会的役割について学ぶ。そして、「遊び」を通して、児童の健全育成を行う児童厚生員になるための基礎的・基本的な技術や知識を習得する。	
授業計画	
第1回：児童館の社会的立場と児童の健全育成	
第2回：児童館の役割及び実際の運営事例	
第3回：現代社会と子どもが抱える問題	
第4回：現代社会と地域・家庭が抱える問題	
第5回：児童館の活動展開と安全管理に配慮した運営	
第6回：児童援助技術を用いた児童館の運営方法	
第7回：放課後児童クラブの歴史とその機能	
第8回：放課後児童クラブの活動と運営方法	
第9回：健全育成活動を成しえるための遊びと育ちの関係性	
第10回：子育て支援活動における子育て支援の現状と課題	
第11回：児童館における援助技術	
第12回：地域福祉活動と児童館の関わり	
第13回：子どもを育成するための遊びのプログラムづくり	
第14回：未来の児童館とこれからの子ども	
第15回：児童厚生員のあり方と実習に向けての心構え	
テキスト：『児童館論（児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ）』児童健全育成推進団著 児童健全育成推進団(2015)	
参考書・参考資料等：『児童館・放課後児童クラブのための安全対策ハンドブック』児童健全育成推進団著 児童健全育成推進団(2013)	
学生に対する評価：筆記試験(40%)、レポート・課題提出(20%)、受講態度(40%)	
・筆記試験は、必要な知識の理解度について評価	
・レポート・課題提出は、提出された成果物の内容を評価	
・受講態度は、真摯な態度で講義に参加しているかを評価	

担当者	鈴木 壽眞子
科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法
開講時期	2年 後期 選択
開講区分	専門教育科目
授業の到達目標及びテーマ	
〔テーマ〕	
・児童館・児童クラブ来館者に対する役割を理解する	
〔到達目標〕	
・児童厚生員二級の指導員として、児童健全育成を柱とした個別的集団的な実践力と応用力を生かすように努める	
授業の概要	
児童館において勤務する児童厚生員として、機動的な児童館の運営が可能となるような技能や知識を学んでいくとともに、児童厚生員としての使命感や責任感を身に付けていく。それとともに、本講義を通して身に付けた知識や技能が、実際の児童厚生員としての業務運営に活かすことができるよう、実践能力と応用力を身に付けていく。	
授業計画	
第1回：児童館とは、児童館の機能、役割、運営について	
第2回：児童館に関する法令、児童厚生事業について学ぶ	
第3回：小型児童館と大型児童館との違い	
第4回：小型児童館の館内活動の概要と実際例の理解	
第5回：小型児童館の館外活動、地元地域における取り組み	
第6回：放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の理解	
第7回：市町村における子育て支援事業を学び、児童健全育成についての実際例	
第8回：児童を対象とした遊びと指導法	
第9回：乳幼児と保護者に応じた遊びと指導法	
第10回：ボランティアの役割と管理	
第11回：児童館における地域と連携と活性化	
第12回：児童厚生員に求められる役割	
第13回：放課後児童クラブ活動の事例と解説	
第14回：放課後児童クラブ活動の展開と役割	
第15回：これからの児童館と児童クラブ	
テキスト：『児童館論(児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ)』児童健全育成推進団著 児童健全育成推進財団(2015)	
参考書・参考資料等：『児童館・放課後児童クラブのための安全対策ハンドブック』児童健全育成推進団著 児童健全育成推進財団(2013)	
学生に対する評価：筆記試験(40%)、レポート・課題提出(20%)、受講態度(40%)	
・筆記試験は、必要な知識の理解度について評価	
・レポート・課題提出は、提出された成果物の内容を評価	
・受講態度は、真摯な態度で講義に参加しているかを評価	